

2025（令和7）年度
事業計画

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	13
03 やまばと希望寮	17
04 わかば(もくれん含む)	21
05 みぎわ	27
06 ケアセンター花もも	30
07 ケアセンター野ばら	33
08 ケアセンターかたくりの花	36
09 ワークセンターカサブランカ	39
10 ケアセンターコスモス	42
11 ワークセンターなのはな	45
12 ワークセンターあさがお	48
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	50
14 ワークセンターやまばと	56
15 ワークセンターさくら	60
16 ケアセンターマーガレット	63
17 レタスクラブ	66
18 生活支援センターやまばと	69
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	72
20 グレイス	76
21 相寿園	79
22 デイサービスセンター真菜	82
23 デイサービスセンターすずらん	85
24 ライフサポートさふらん	88
25 居宅介護支援事業所シャローム	91
26 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	94

2025（令和7）年度 事業計画

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

序

押し寄せる「超高齢社会」の波、…その高波の一つとして警戒されてきた「2025年」を迎えた。戦後のベビーブーマーたち全員が75歳以上になる年で、それがもたらす深刻な問題に対応するため、すでに包括ケアシステムが構築されている。

次の高波は「2040年」と言われ、生産年齢人口が減少する中、高齢者人口はピークに達する見込みであり、社会保障制度を維持する対策がすでに始まっている。例えば、医療・介護連携システムや、情報基盤整備事業といった施策で、電子データのやり取りを通して、利用者情報を、行政と医療機関、福祉施設等が、すばやく共有し、迅速で無駄のない対応をすることを目的としている。私たちはこういった生産性向上のためのICT化を進めながら、「人格の尊重」、「寄り添う」という基本姿勢を忘れず共生社会形成のため努める必要がある。

世界に目を向けると、2024年11月、ドナルド・トランプ氏がアメリカ大統領に選出されて以来、これまで主流だった自由世界の価値や理念、協力体制は斥けられ、自国第一主義、経済的取引といった言葉が横行するようになった。確かに、行き詰まっていた事態に「変化」がもたらされた面もあるが、それは、より豊かな共生社会への歩みなのかどうかは不明である。自国第一主義の姿勢や、高度技術による効率化・管理体制の広がり、私たちが願ってきた「自由な共生社会」を後退させる恐れもあるので、世界や日本が適切な方向へ向かうよう願わずにはいられない。当年度も神に叡智を求めつつ、ふれずに福祉のわざを進めたい。

A 創立の精神と、目標

1 理念とめざすもの

牧ノ原やまばと学園は、「ともに生きる」の理念を掲げ、小さき人々が大切にされ、誰もが幸せになる「共生社会」の形成をめざしている。

この務めにつく私たちは、『思いやりと助け合い、専門性』で特色づけられる職員集団になるよう、2025年度も力を合わせていきたい。

2 わたしたちの願い

- (1) 一人一人を、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) 一人一人としっかり向き合い、その成長や喜びのために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切に、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の生命の輝きを伝えていきたい。

B 2025年度牧ノ原やまばと学園の事業概要

本年度に実施する事業や組織体制、役員・職員状況等は、添付資料の通りである。

- 1 本年度実施事業：事業計画B-1を参照。
- 2 組織体制：事業計画B-2
- 3 役員・評議員名簿、並びに、職員状況：事業計画B-3
- 4 理事会、評議員会等の年間予定表：事業計画B-4
- 5 2024年度主要な研修計画：事業計画B-5

C 法人の計画と、中長期計画、各事業所の計画との関係

- 1 中長期計画（以下、未来計画という）：中長期（3～5年）にわたる計画で、全体の内容は、別の冊子にまとめられている。未来計画のうち、特に2025年度に検討すべき計画については、法人の事業計画の中に記載した。

法人の事業計画や、施設の事業計画：1年間のみの単年度【2025年度】計画である。

- 2 計画の立案者と、未来計画の立案→実践の過程

- ・法人の計画立案者：理事長＋経営会議メンバー。
理事長の指示のもとに実行するが、理事会の承認が必要な案件は理事会へ提示。
- ・事業所の計画立案者：（施設長＋職員） 施設長のリーダーシップのもとに実行。
- ・やまばと未来計画：6グループ（①経営、②支援、③人材、④研修、⑤環境・建物（防災も含む）、⑥地域）に分かれて立案。それぞれのグループリーダーは、経営会議メンバーが務め、この他の構成員として、施設長や副施設長や主任が入る。
- ・未来計画のグループリーダーは、経営会議（2回/月）において進捗状況を報告する。
／ 実行したい計画は、経営会議に提出。審議され、承認されれば具体化するが、理事会承認が必要な案件は、理事会で承認されてからとなる。
- ・計画案は、理事長や経営会議メンバーの意見を通して、修正されることもある。
- ・未来計画は、時には、理事長が直接経営会議に提示することもある。

- 3 各事業所の計画内容とPDCAの責任者：

- ・事業所の事業計画は、法人が提示した8つの共通項目（A、B、……Gまで）に基づいて立案される。 →※8つの共通項目
- ・各事業所は、法人が提示した2025年度の重点目標を、自施設の事業計画の中に組み入れ、その具体化のため努めねばならない。 → D「法人の重点目標」
- ・施設長は、事業計画の作成と遂行、進捗状況の把握と改善のため権限と責任を与えられており、リーダーシップを発揮して任務を遂行しなければならない。また、管理者会議や部会などを通して、事業所同士、相互に情報を共有し、学び合い、助けあって、全体のより良い営みのために協力し合う必要がある。

※8つの共通項目とは、下記のとおりである。（各事業所の事業計画を参照のこと。）

- | | | |
|------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| A 目標と主要な計画、
ために工夫したいこと | B 利用者と職員の状況
D 職員の喜びや成長のために工夫したいこと | C 利用者の喜びの
ための工夫したいこと |
| E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画 | F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画 | G 苦情報告と対策 |
| H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策 | I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画、／課題の克服など | |
| J 環境整備に関する計画 | K 収支、並びに、借入金返済計画 | |
| L 主務官庁との関連 | M 実習生やボランティア | |
| N その他（監事監査指摘事項への対応など） | | |

D 2025年度 牧ノ原やまばと学園 重点目標、 並びに、法人と施設との連携・連絡体制

- 1 当年度 牧ノ原やまばと学園 重点目標は、下記の4項目である。
各事業所は、4つの重点目標の中から1つ以上を、自施設の事業計画に組み入れ、具体化を図らねばならない。進捗状況は、施設管理者会で数ヶ月に1回報告される。

- (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする

- (2) 自分の成長を実感でき、働きやすくて楽しい、秩序ある職場をつくる
- (3) 有事に機能する防災体制を築く
- (4) 地域のニーズを把握し、取り組むべきことに着手する

2 法人と施設との連携・連絡体制

<組織>

施設連絡会（月1回、理事長、施設長の会合）

部会（高齢者部会と障害者部会（作業就労部会／生活ケア部会）へ各部長と施設長が集う。

事務部門（事務長と事務員の会合。障害者部門と高齢者部門がある。）

経営会議（理事長と事務局長、部長の会合）

<利用者支援に関し、法人から施設に求めること>

- (1) 法人は、1～4の重点目標が実を結ぶよう、例えば、虐待の芽・根絶のため工夫する、「就職後の私の変化」について職員が発表し皆で共有、自施設の防災体制や、地域への取り組みに関して発表するなどの機会を提供し、全体のレベルアップを促す。
- (2) 下記の点については特に施設の取り組みを見守る予定。よい実践は発表し全体で共有。
 - ①利用者本位のサービスの提供、
 - ② 原則として同性介助：限定的な実践になってもOK
 - ③ 「ご利用者支援や業務改善のための取組
 - ④ 介護施設でも障がい者施設でも、虐待防止研修や、BCP策定等、義務化されたものがあるので、着実に対応し、安全・安心を確保しているか確認。
- (3) 良い実践を法人内で伝えるだけでなく外部の介護技術コンテスト等への参加を促す。

<職員育成や支援に関し、法人から施設へ求めること等>

- (1) 法人主催の研修（新年度研修や管理者研修、主任等研修 等々）への参加を促す。
- (2) 良いことは褒め、望ましくない行為は明確に注意できる職場づくり
（主任以上の役職者の責任であり任務でもある）
- (3) 施設長同士・職員同士の意思疎通を深め、学び、助け合う機会をつくる。
また、年1回は親睦のための管理者の集いを開催する。
- (4) 年1回、理事長による管理者面談を実施する。

※利用者に関しても、職員に関しても、トラブルや事故等が発生した際は、速やかに理事長や本部へ連絡しなければならない。

※事業所（施設）から法人へ要望がある場合は、直接理事長へ伝えることもできるし、施設連絡会や部会を通して、伝えることもできる。

E 2025年度に実施すべきこと

- 1 新年度から実施する新給与規程／公休数増加等について状況の調査と評価。
- 2 施設管理者会において次のような時間を持つ。
 - ・価値観について学び、話し合う。
 - ・利用者支援や、施設運営に関する施設の取組発表。（切磋琢磨する機会）
 - ・地域で活躍している方（行政、実業、牧師たち）から話を聴き、対話
- 3 聖書に耳を傾ける時の設定
具体的な内容は、職員たちとも意見交換して決める予定。開設の目的は、「自分たちは神に愛されている存在」であることを知り、職場が、喜び、希望、和解、思いやりに満ちた場へと導かれていくことを願ったこと。
- 4 事務統一検討会（理事長、事務局長、事務長、主任たちの会合）の継続
2024年度の検討会を通して、内部監査の実施や、書式の統一などが具体化した。

高齢者施設と障害者施設における「事務作業の統括と分担」の課題は未解決のままなので、当年度も事務部門が効率よく機能する道を（ICT化も含めて）探りたい。

5 人材の確保・育成・定着

※未来計画の「人材」グループや、「支援」グループと協力し、次のようなことを行う。

(1) 日本人への求人活動

- ① お帰りプロジェクトや大学等が開催する求職案内の場学校に参加、学校訪問の実施。
- ② 実習生へのアプローチ：求人に効果的なので、当年度も丁寧に対応していく。
- ③ ジョブリスティングによる求人広告：初めての試み、8月以降に実施予定。
- ④ SNS等の発信による若者へのアプローチ

(2) 新人職員への教育、並びに、階層別の職員研修

- ① 新人職員研修：年3回のシリーズ開催。対象は2025年度入職者（前年度の人も1名）
- ② 階層別の職員研修：添付資料「研修計画」に記載
- ③ 新人施設長研修：伊藤美和（野ばら）と、畠夏実（WoCやまばと）に対して、年度初めに、管理者の役割や経理に関して、研修を行う予定。
- ④ 対人支援力アップのための専門的研修の機会を提供：「事業計画 A-5」を参照
- ⑤ 自己と他者への理解が深まり、心が養われる研修や、読書の機会を提供

(3) 外国人ワーカーの確保・育成・定着のための支援

現在働いている方たちの本音を聞き、参考にして、確保・育成・定着に活用したい。
EPA生や特定介護実習生に対しては、資格取得のための支援を行っているが、その他の外国人ワーカーには行っていないので、情報提供し資格取得を促す。

6 「未来検討会」から提示された「2025年度に特に取組みたい計画」を検討し具体化する。

<グループ名> 右側は、「2025年度に特に取組みたい計画」内容

<経営> 書式の統一/本部機能と事務体制の刷新について

<人材> 学校訪問や、人材セミナーへの参加等、採用計画をたて実行に移す

<支援> 相談援助のスキルアップも兼ね、各事業所の相談員情報交換の場をつくる（2回目）

<研修> 創立以来の機関紙巻頭文をまとめて配付/聖書や讃美歌を聴くときの実現について

<建物・環境> 実際の被害を想定した防災計画と訓練、/事業所BCPの見直し

<地域> 近隣市町の福祉計画を学ぶ（次は吉田町）/法人内の相談事業所スタッフや外部団体の委員（当法人職員）から地域ニーズを聞き検討し、地域のニーズに応える計画案を経営会議へ挙げる。/タッフや外部団体の委員である職員から地域ニーズを聞き、検討する。/オリーブ園まつりやほとりカフェまつりと関連づけ地域交流イベント開催。

F 当年度も開催する定期的な会合

1 苦情解決委員会と事故防止委員会の開催、並びに、交通安全講習会の受講

- (1) 苦情解決委員会：第三者委員もお招きして、年に2回開催。有益な学びである。
- (2) 事故防止委員会：年に2回開催。事故とヒヤリについて事例検討と改善の学び。
- (3) 交通安全講習会：保険会社主催の講習会。公用車の事故も多いので事故ゼロを目指す。

2 虐待や身体拘束等の防止対策

- (1) 虐待の芽・根絶のため、全施設で努力していく。/外部に開かれた施設を目指す。
- (2) 障害者部門で身体拘束の事例が多いので、職員の意識改革に努め、改善を図る。
- (3) 全体虐待防止委員会：年2回開催、各施設の虐待防止対策や事例について研修。

G リスク対応

1 有事に機能する防災計画と防災訓練

- (1) 地震・津波・暴風雨等でのリスクを想定した現実的なBCPを策定し防災訓練実施。

- (2) 全体防災訓練：年に1回。
 - (3) 「原発災害避難計画」も作成し、机上訓練
 - (4) ハザードマップの確認と防災対策：危険個所を把握し対応しているか、実態調査。
 - (5) 本部の立地条件とリスク対応：一部が特別警戒区域、他の一部は土砂災害警戒区域なので、リスクを検討し対策をたてる。
 - (6) 安否コールシステムの活用：「安否確認訓練」を毎月1回以上実施。
 - (7) 本部のBCPの改定：防災と感染対策に関して、現実的でより良い内容にしたい
- 2 感染対策
- (1) 食中毒やインフルエンザなどについて、早めにリスクを伝え予防を周知させる。
 - (2) コロナ対応：三密回避、手洗い、マスク着用、状況に応じてフェイスガード着用。
- 3 サイバー攻撃やシステムダウン等に対する対策
- (1) データの消失対策：クラウドやサーバーの活用、バックアップ等により対応する。
 - (2) コンピューターウイルス「Emotet (エモテット)」感染の警戒：職員全員に通知。

H 施設整備や環境整備に関する計画 (100万円以上の修繕や改装など)

- (1) 施設整備：各事業所の事業計画・該当箇所を参照のこと。
 - (2) 環境整備：各事業所の事業計画・該当箇所を参照のこと。
- ※建物維持に関しては、未来計画の「建物・環境」グループの提案により、数施設がまとまって、定期的に自分たちの施設を点検することになったので、当年度も継続。

I 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 2025年度予算：収入2,072,190千円、支出2,095,350千円、当期資金収支差額931,374千円
- ・予算の段階では理想の職員数で人件費を見積もるので、赤字予算の施設が多い。
 - ・指定管理事業「相寿園」の赤字予算は大問題。牧之原市と話合う必要がある。
 - ・理事会の承認を得れば、新給与改定の財源に充てるため、法人より1000万円の繰入れが決定され、2025年以降は、固定的な出費となる。
- 2 借入金償還計画：
- ・変動利率がさらに上がっている状況なので、ワークセンターなのはなの借金、現在、約5400万円に関しては、一括返済を検討する必要があるだろう。
 - ※なのはな長期借入金：静岡銀行より、7800万円、期間2017.4～2042.4
 - ・聖ルカホーム（ショート、さふらん含む）の償還計画は順調。

J 地域への取組み

- 1 地域に対する公益的取組：下記のような活動を引き続き実施する。
- ①低所得者への利用者負担軽減制度事業の継続
 - ②地域のサロン参加者（高齢者）のための送迎協力
 - ③食糧支援活動
 - ④住民の買物支援のため、施設の車両の貸し出し（その他の取組は割愛）
- 2 委託事業の継続（人手の面や財政面で困難が多いが、地域福祉推進のため）
- ①「包括支援センターオリーブ」（高齢者）と「生活支援センターやまぼと」（障害者）
 - ②「レタスクラブ（心を病む人の居場所）」の運営
 - ③牧之原市の養護老人ホーム「相寿園」の指定管理事業
- 3 地域の行事への参加、行事へ招待、防災上の連携等
- 4 地域への発信（ホームページや、SNS等を通しての発信）

- 5 地域交流事業の継続：「喫茶ほとり」と「やまばと」が協働で、地域住民と交流
- 6 オリーブ祭りの再開：河川改修工事により中断していたが、秋に再開予定

K 労務環境改善のための計画

- 1 一般事業主行動計画
仕事と家庭の両立の環境整備のため、当年度も有給休暇の消化／育児休暇取得の奨励／ノー残業デイを目指す。男性の育休が実現したので労務優良マークを申請予定。
- 2 最新の福祉・労務関連法令の学びと、法令遵守
- 3 アンケート等を通して職員の声を聴き、可能な限り希望に応える。
- 4 職員の悩みに寄り添う相談担当者を、引き続き配置し対応
- 5 シニアワーカーの実態把握と環境整備

L その他

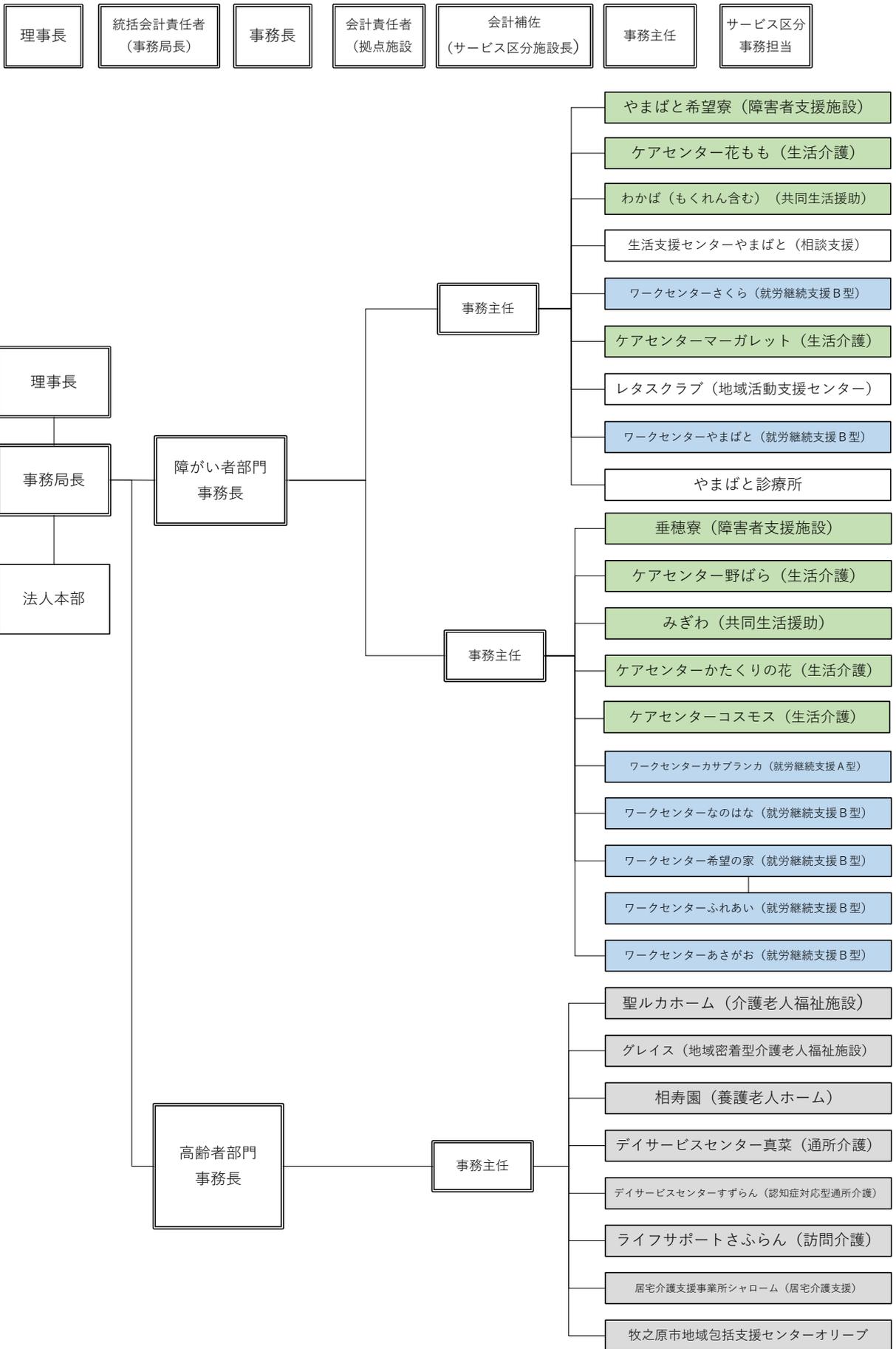
- 1 機関紙「やまばと」の発行と、メッセージの発信：
隔月発行。目的（福祉情報発信、当法人の活動報告）に沿って、内容を充実させたい。
- 2 ホームページ：若者や求職者がアクセスし易い形に変更したので、様子を見守る。
- 3 チャットやフェイスブック等によるPR活動の推進：若者を対象にしたPR活動
- 4 「ワークセンターコスモス（就労継続B型支援事業所）」の種別変更
本年4月1日より、生活介護に種別変更し、「ケアセンターコスモス」という名称に変わる。従来の作業も日課に取り入れ、「働く生活介護」という特色を出す予定。
- 5 恵泉女学園中高生の訪問と夏季実習の受け入れ
- 6 ボランティアに関しては、主として、各事業所が対応する予定。

2025年度 牧ノ原やまばと学園 実施事業

※職員数のみ2025年3月1日現在 (カサブランカ利用者含まない)

事業計画B-1

事業	事業所名	種別	設立年月日	定員 (JSS)	管理者等	正規職員	準職員	嘱託	パート	合計	
老人福祉	1 法人本部	-	1970・4・12	-	板倉 仁	2	1		1	4	
	第一種	2 聖ルカホーム (※2種事業ショート含む)	介護老人福祉施設他	1981・5・1	70(10)	大石 幸	45	2	2	21	70
		3 グレイス	地域密着型介護老人福祉施設他	2010・8・1	29	片山 喜之	13	3	2	13	31
		4 相寿園	養護老人ホーム他	1961・9・1	50(5)	柴田 慎也	8	1		17	26
		5 ティーサビスセンター-真菜	通所介護他	1999・4・1	35	吉田 陽子	3	2		12	17
	第二種	6 デイサービスセンター-すずらん	認知症対応型通所介護	2010・8・1	12	米山 千穂	2			7	9
		7 ライフサポートさふらん	訪問介護他	2000・11・1	-	大石 幸	2	1		9	12
		8 垂穂寮 (※2種事業ショート含む)	障害者支援施設他	1987・4・1	50(4)	石川 忠昭	27		1	16	44
	障害者福祉	9 やまばと希望寮 (※2種事業ショート含む)	障害者支援施設他	1997・4・1	30(5)	大畑 彰弘	21	2		8	31
		10 わかば	共同生活援助 (主住居)	2010・4・1	10	高杉 和成	2	2		6	10
11 もくれん		共同生活援助 (従住居)	2010・4・1	10	高杉 和成	1			12	13	
12 みざわ		共同生活援助	2010・4・1	10	杉山 勝拓	3	1		5	9	
13 ケアセンター-花もも		生活介護	1997・4・1	20	桑原 裕子	4	2		6	12	
14 ケアセンター-野ばら		生活介護	1999・4・1	20	伊藤 美和	5	2		5	12	
15 ケアセンター-かたくりの花		生活介護	2006・4・1	20	渡邊 千恵子	3	2		10	15	
16 ケアセンター-マーガレット		生活介護	2005・4・1	20	田澤 岳大	3			8	11	
17 ワークセンター-カサブランカ		就労継続支援A型	2007・4・1	15	澤渡 繁	3			2	5	
18 ケアセンター-コスモス		生活介護	1980・4・1	20	森山 規子	2	1		8	11	
社会福祉事業	19 ワークセンター-なのはな	就労継続支援B型	2000・4・1	30	西村 美恵子	3			9	12	
	20 ワークセンター-希望の家	就労継続支援B型 主	1981・10・1	40(20)	原 絵梨	2			4	6	
	21 ワークセンター-ふれあい	就労継続支援B型 従	1994・4・1	(20)	原 絵梨	2			2	4	
	22 ワークセンター-やまばと	就労継続支援B型	1977・10・1	20	畠 夏実	3	1	2	2	8	
	23 ワークセンター-さくら	就労継続支援B型	1981・10・1	22	河本 敦子	3		1	3	7	
	24 レタスクラブ	地域活動支援センター	2010・10・1	-	河本 敦子				2	2	
	25 ワークセンター-あさがお	就労継続支援B型	1992・4・1	20	石神 知之	3	1		6	10	
	26 生活支援センター-やまばと(牧之原/島田/吉田)	相談支援	2003・10・1	-	大畑 彰弘	8			1	9	
	27 居宅介護支援事業所-シャローム	居宅介護支援	1999・10・1	-	栗林 真弓	1			1	2	
	公益事業	28 牧之原市地域包括支援センター-オリーブ	地域包括支援センター	2006・4・1	-	松田 正幸	4		1	3	8
29 やまばと診療所		診療所	1973・4・1	-	赤堀 由砂			2	2	2	
						178	24	11	199	412	



1. 役員・評議員名簿、並びに、職員状況

区分	氏名	役職その他
理事長	長澤 道子	社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長
理事	姉崎 弘	九州女子大学教授
理事	大石 幸	聖ルカホーム・ライフサポートさふらん施設長
理事	佐々木 炎	NPO 法人ホットスペース中原理事長、牧師
理事	平井 章	元十字の園理事長
理事	松田 正幸	牧之原市地域包括支援センターオリーブ施設長
理事	三浦 賀世	元静岡県立高等学校教諭
監事	飯塚 誉之	元島田掛川信用金庫常務理事、元支店長
監事	松浦 隆雄	元 静岡県庁職員
評議員	池上 千穂	東部特別支援学校副校長
評議員	太田 雅子	聖隷クリストファー小学校校長
評議員	柴田 敏	静岡英和学院院長
評議員	杉本 正	牧之原市社会福祉協議会会長
評議員	外岡 潤	当法人顧問弁護士 弁護士法人おかげさま代表弁護士
評議員	田島 逸雄	吉田町社会福祉協議会会長
評議員	早川 ひろみ	創設期のやまばと学園職員
評議員	山城 厚生	島田市社会福祉協議会会長
評議員	渡辺 紀久子	NPO 法人「日本のこどものための委員会」理事長

2. 職員状況

【正規職員】	180人	(男 71人 女 109人)	平均年齢 48.6 歳
【準職員】	24人	(男 6人 女 24人)	平均年齢 51.2 歳
【嘱託職員】	11人	(男 4人 女 11人)	平均年齢 51.7 歳
【パート職員】	201人	(男 28人 女 201人)	平均年齢 59.4 歳

2025 (令和7) 年度 牧ノ原やまばと学園 予定表 (理事会その他の会議や、★研修等)

	理事会・評議員会	法人関連の会議や研修等	その他
4月		★前期・オリエンテーション I (4/1) ・前期・苦情解決委員会 ★新人管理者のための研修	会計消費税監査(4/9) 会計決算監査(4/24、25) 業務監査
5月	2025年5月24日 第1回理事会	★新人職員研修1 ・前期・事故防止委員会	会計監査 決算ヒアリング
6月	2025年6月14日 定期評議員会 第2回理事会	★一般職員 研修 (介護スキル、現場接遇マナー) ★新年度全体職員研修 (6/7)	
7月		★交通安全講習会	恵泉女学園訪問(7/26~28)
8月		★経理・財務研修 ・夏期 全体虐待防止委員会 (8/20)	納涼祭 (各施設)
9月	2025年9月13日 第3回理事会	★後期・オリエンテーション I (9/30) ★事例検討会 (障害者関連と高齢者関連) 計2回	1次補正ヒアリング
10月		★法律研修 ・後期・苦情解決委員会 ・BCPに基づく全体防災訓練	・全職員へ 異動希望等の調査表配布
11月		・後期・事故防止委員会 ★中堅職員研修 ★新人職員研修2	定期監事監査 2次補正ヒアリング ・自己評価表の配布と提出
12月	2025年12月13日 第4回理事会	・中長期計画の検証/法人の新年度目標の発表	クリスマス会 (各施設) EPA 生 (印尼女性) 2名希望寮へ
1月		★全体防災研修	管理者面談
2月		・新年度事業計画作成 (3次補正ヒアリングで発表) ・冬期 全体虐待防止委員会 (2/19) ★労務研修	3次補正ヒアリング
3月	2026年3月14日 第5回理事会	★新人職員研修3 年間活動に関する事業報告の作成	
その他	その他の関係団体の会議等の日程は省略 人材確保のための日程等も割愛	★適宜、サボカレ等の、短時間 Web 研修を受講。 【毎週】 理事長より「聖句とメッセージ」のメール送信 【毎月】 経営会議、施設管理者会、部会 (高齢1/障害2) 研修委員会、施設の避難訓練 【隔月】 偶数月、機関紙「やまばと」発行、編集委員会	各施設：実習生、見学者、ボランティアの受入、/施設便り発行/誕生会や行事開催。 ★県社協・経営協主催、関係機関団体主催の 研修へ参加

2025 年度主要な研修計画

事業計画 B-5

名称	日時	内容	講師など
1 オリエンテーション I	4月1日(火)	法人の理念等の学び	理事長 他
2 新人管理者のための研修	4月	当法人の管理者の共通業務	理事長、先輩管理者
3 新人職員研修①	5月	介護スキル/事故の予防・再発防止	未定(ベテラン上級職員)
4 新年度全体職員研修	6月7日(土)	福祉の道を歩む人々へ(仮題)	水野雄二理事長(神戸聖隷)
5 一般職員研修	6月	介護スキル/事故の予防・再発防止	未定(ベテラン上級職員)
6 交通安全講習会	7月頃	交通安全の学び	保険会社に依頼
7 経理・財務研修	8月	試算表の意味、予算について	萩原先生
8 事例検討会(障害者部門)	9月中旬	困難事例の学び	吉浦輪先生
9 事例検討会(高齢者部門)	9月中旬	困難事例の学び	吉浦輪先生
10 オリエンテーション II	9月末	法人の理念等の学び	理事長他
11 法律研修	10月	ハラメント等	外岡潤先生
12 中堅職員研修	11月	職員の育成、チームワーク形成	長崎一朗先生
13 新人職員研修②	11月	介護スキル/事故の予防・再発防止	未定(ベテラン上級職員)
14 防災研修	1月	BCPへの取組と災害対応研修	鈴木俊文先生
15 労務研修	2月	法改正への対応も含めた労務研修	小山圭子先生
16 新人職員研修③	3月	介護スキル/事故の予防・再発防止	未定(ベテラン上級職員)

※ 短時間の研修としては、サポーターズカレッジ(略称サポカレ)や、お茶の水ケアサービス学院提供のWeb研修があり、各事業所で活用中。

※※ これ以外に、施設独自の研修、諸々の関係団体が開催する外部研修があり、各事業所の職員は、施設長の承認のもと、参加している。

2025（令和7）年度事業計画

障害者支援施設
垂穂寮

A 当年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標

ご利用者、ご家族、職員、地域との「つながり」をより強く意識することで、より開かれた、人が集まる施設となる事を目指す。そしてご利用者やご家族が安心できることを最優先に、職員がやりがいをもてること、地域から信頼を得られるための事業所運営を行う。

2 事業計画

(1) 支援の専門性の向上

困難事例に対するケース検討会の充実や外部コンサルの導入、介護技術習得のための外部講師による研修や高齢者施設への実習を行う。また、支援のツールや道具、素材、福祉用具等を導入することで、職員や利用者にとってわかりやすく、負担の少ない支援を実施する。

(2) 虐待防止、不適切支援防止

引き続き、静岡福祉大の教授に協力を仰ぐなど、第三者の目線から支援を振り返る。また、気付きシート、セルフチェック等活用の頻度を増やす他、内部研修の開催や外部研修への積極的な参加を図る。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

(1) 意思決定支援、個別支援の充実

ご利用者のやりたいこと、楽しいことの実現が職員のやりがいに繋がるように、ご利用者の意思確認やそれに基づく個別支援計画の作成、支援を実践していく。

(2) 個人ではなくチームによる支援

困難時の対応やケース検討など、職員個人による価値や経験値などで判断するのではなく多職種連携の検討の上で、ご利用者の安心に繋がる支援に導いていく。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 開かれた施設運営（地域との繋がり）

地域生活支援拠点の協定に基づく緊急時対応、買い物支援での車両提供、車いすステーションでの場所の提供等、出来るだけ地域等で依頼された事は協力していく。また、直営給食の強みを活かし、家族、学校、地域の行事との繋がりを強めていく。

(2) 防災体制の構築

BCPに基づき、地震、風水害等、よりリスクの高い災害に関する備えと発災時の対応について、日常的に確認をする。また、野ばら、みぎわとも連携し、拠点で協力し合える体制も整備する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

	定員	昨年度末 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所 日数	1日平均	利用率
施設入所支援	50	41		42	365	41	82
生活介護	40	41		40	268	31	77
ショートステイ	4	12		4	365	1.5	37
日中一時支援		0	0	3	365	1	25

2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	1	4	36	41

3 職員配置予定

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	1	2	30	2	1
常勤換算人数	1	1	1.0	26.7	1.0	1.0
	調理員	事務員	業務員			合計

実人数	5	1	(3)			40
常勤換算人数	4.4	1.0	(0.3)			36.0

* 重度障害者支援加算の継続。

4 残業と、有休休暇取得に関する計画

(1) 残業について

人材不足の影響もあるが、リーダーへの業務負担が大きく、時間外業務も多い傾向にある。負担が偏らないように業務分担を図っていく。

(2) 有給休暇取得について

昨年度の有休取得率は全職員平均して50%弱となっているため、60%を目標とする。義務化分の取得のみでなく、出来るだけ全職員が平均して取れるようにバランスを見ながら声掛け・調整を行っていく

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	運営会議	リーダー	重要事項の決定、業務改善 等
	(虐待防止委員会)	リーダー	運営会議に合わせ開催、不適切な支援の防止等
毎月	寮全体会	全職員	重要事項の共有、職員研修 等
毎月	経営会議	施設長	法人の経営に関する検討 等
毎月	生活ケア部会	施設長	法人の生活ケア部門の情報共有、課題検討 等
年2回	身体拘束委員会	メンバー	身体拘束に関する振り返り、検証 等
年2回	リスクマネジメント委員会	メンバー	ヒヤリハット、事故に関する振り返り、検証 等
適宜	研修委員会	メンバー	事業所内職員研修の企画、運営 等
毎月	チーフ会	リーダー	支援部門の運営、利用者支援等について検討等
毎月	A・B・C・D各ケース会	メンバー	各ケースチームによる、利用者支援の検討 等
年4回	感染症対策委員会	メンバー	事業所の感染症対策の企画 等
毎月	ケース検討会		利用者のケース検討会
年2回	3施設防災委員会	防火管理者	3事業所の防災整備 等
毎月	給食委員会	メンバー	給食に関する検討 等
適宜	パート職員会議	パート	パート職員の連携に関すること 等

*外部委員会については未定

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

1 生活介護・施設入所支援

入浴、散歩、リハビリにとどまらず、公園での散歩や外食、おやつ外出などの地域資源を活用したり、カラオケ、お花見、水遊び、かき氷大会、自販機での飲料購入などご利用者がやりたいこと、好きなことが実現できるための意思決定の場を設けていく。

その他の行事は引き続きご家族も招いて開催する。

2 短期入所・日中一時（日帰り短期入所）

サービス管理責任者を窓口として、家族の休息ニーズを少しでも満たす事と同時に、利用者に合わせて過ごし方を工夫しながら、必要な支援を提供する。緊急時の受入は、引き続き可能な限り応じていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
適宜	私たちの願い・サービス提供指針等の唱和	全職員	打合せや会議の時に皆で唱和する

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

ケースチームに関し、自閉症支援を中心としたグループと介護を中心としたグループに分け、それぞれの専門性が発揮できる組織体制とする。

ケース会や寮全体会などの機会を使い、にじつなカードを使ったコミュニケーションや職

員インタビューを実施するなどして職員のより良い交流を図っていく。職員は利用者、他職員に対して支援する、励ます、傾聴する、受容する、信頼する、尊敬する、違いを交渉（穏やかに、冷静に、落ち着いて）する、笑顔で対応することを常に心がけていく。

3 研修計画

(1) 事業所内研修

自閉症支援、介護技術の向上に関する研修を中心に実施していく。外部コンサルタントや外部講師を招き、専門家によるアドバイスを受ける機会を積極的に設ける。また、外岡弁護士やサポーターズカレッジ等配信動画による研修の機会も増やしていく。

(2) 法人内研修

法人研修委員会等が企画した研修に出来るだけ参加するように呼び掛ける。また、高齢者施設への実習や他法人への実習を積極的に行い接遇や介護技術を学び個人のスキルアップに繋げる

(3) 外部研修

意思決定支援、虐待防止や身体拘束等、ご利用者の権利擁護に関わる研修を中心に積極的に参加していく。受講した研修は他職員に伝達する機会も設けていく。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

1 公益的取組み

島田市社会福祉協議会を通して、大草市営住宅団地住民の「買い物支援」として公用車を昨年度に引き続き提供する。また、玄関ホールに「島田市車いすステーション」を設置する

2 地域との交流

(1) 第3地区民生児童委員との交流

年1回の花植え、研修会への講師派遣

(2) 市内小中学校との交流

市内小中学校で開催される福祉講座への講師派遣 等

(3) 地域連携推進会議の開催

利用者と地域との関係づくり、地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進等を図るため年1回以上開催する。ご利用者、ご家族の他、民生委員、行政関係者、志太榛原地区の入所施設施設長へ出席を依頼する。

(4) その他

地区の行事へ参加の他、自前の食事提供を生かした給食試食会を開催するなど施設に引き入れる取り組みも行っていく。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

保護者会に参加し、垂穂寮の現状等について伝えていく。また、毎月発行される「みのり」にて、事業所の様子等を定期的に届ける。行事には参加を呼びかけ、ご利用者の食事介助や運営のボランティアとしても協力を仰いでいく。面会、外出に関してもご利用者やご家族の希望に沿うように実施する。ご利用者、ご家族アンケートも実施し、事業所運営に生かしていく。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情に関してはなかったが、転倒事故による家族への報告と今後の対応について意見があった。家族への報告はサービス管理責任者を中心に、迅速に、真摯な対応を今後も心掛けていく。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（できるだけ項目別に記す）

1 事故、ヒヤリハット

ご利用者の障害特性や嚥下機能の低下もあり、食事時の窒息へのリスクが高まっている。介護技術の向上と並行し、食事支援のありかたについてもご利用者ペースでの支援を最優先に実践していく。

他害・転倒・薬関係の件数が多く見られたため、施設環境を整えるとともに、ケアカルテを活用し素早い情報共有を行う事で、事故につながらないように努める。事故への対応のみを考えるのではなく、事故の原因すなわち「なぜ？」を繰り返していくことで事故の

分析、減少を図っていく。

2 虐待

ショートステイの利用者が排泄の失敗をしてしまった事に対して、頭部を叩く、強引な誘導、大きな声で咎めるといった対応が見られることがあった。利用者の状態変化に対する情報の共有化を図っていくこと、感情が高ぶりそうになった時や困った時などはすぐに助けを求められるような体制作り、不適切な支援が見過ごされないような小さな芽を摘んでいくための取り組み、アンガーマネジメント研修の積極的な受講等を勧めていく。

3 身体拘束

居室施設・つなぎ・4点柵は昨年度も引き続き見られていた。ケース会、運営委員会、身体拘束防止委員会にて3要件を確認し、身体拘束ゼロに向けた施設環境の整備や権利擁護研修等で職員の意識付けに努めていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

日中や夜間における火災・水災害を想定した防災訓練を毎月実施する。また、BCP訓練を年1回実施する。立地上、土砂災害警戒区域にあたるため、3事業所連携の上で訓練を実施する。訓練の一環として、受水槽の水の使用や防災用ガス設備を使った防災食の調理も行う。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

法人未来計画に沿い、建物の自主点検は年1回実施する。防災用放送設備が設置後26年を経過し不具合が生じている為、新規入替を行う。また、事業所内のパソコン11台のリース更新、監視カメラの増設と更新も行う。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

入所利用契約者が41名となり、昨年度よりも収入は減少する見込み。生活介護に関しては現員31名の為、定員を40名に減らし運営を行っていく。地域で暮らす方の生活介護利用者を募ったり、短期入所利用者の積極的な受け入れにより収入の補填を図る。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

2023年度に実施した実地指導では特段大きな指摘はなかったものの、BCPの整理や見直し、虐待防止や身体拘束に関する研修や振り返りの徹底、その他報酬改定による書類の整理等は引き続き行っていく。生活介護の定員は50名から40名に変更。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

保育実習・社会福祉士を目指す実習生の受け入れについては、今後も積極的に受け入れていく予定となる。また、介護福祉士を目指す実習生の受け入れも積極的に行っていくと同時に、質の高い支援や学びが受けられるように施設内の環境を整えていく

2 ボランティア

草取り、花植え、清掃、窓ふきなどの環境整備や周辺業務などのボランティアについて、希望者を積極的に募る。また、洗濯・調理に定期的に来て頂いているボランティアの方は今年度も継続して依頼する

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

1 E P A生

人材不足を補うためだけではなく、本人達が持っている強み、仕事への実直さを生かし、仕事が楽しく、やりがいを感じられる環境を整えていく。今後もE P A生を受け入れていくことを見据え、将来本人達が良い手本となるような育成を行っていく。

2 精神科受診

長らく精神科の専門の医師による診察がなされてこなかった経緯がある。血中濃度測定や投薬調整など必要な診察が受けられる様な体制を整える。市内のクリニックでの受診を予定している。

2025（令和7）年度事業計画

障害者支援施設
やまばと希望寮

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画に立って事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標

明るい未来検討会を中心に、利用者様が「しあわせ」に生活ができる、職員が「しあわせ」を感じて働くことができる、地域に「しあわせ」と届けることができる事業所運営を行う。

2 事業計画

(1) 全体

- 1) 整理・整頓→わかりやすいPart2：整理・整頓を更に進めることで、利用者様にとっては生活が、職員にとっては働きが、シンプルでわかりやすく、安全で幸せな場所になる。
- 2) 繋がる、伝わるPart2：利用者様同士が、利用者様と職員が、職員同士が、事業所がご家族と、地域と繋がる。そして、更に必要なことが確実に伝わるようになる。
- 3) 凡事徹底：むずかしいことができて、平凡なことができないということではいけない。平凡で当たり前のことが徹底してできる事業所になる。

(2) 支援部門

- 1) アセスメントPart2：ケース会やミーティング、事例検討会等で、AIも活用したアセスメントを行う。また、環境の調整、利用者様の出来ることや思い、その変化を更に深く観て意見交換していく。
- 2) 統一した支援Part2：支援の目的を問い直すとともに、ムリやムダを減らしながら、マニュアルや支援手順書を改善することで統一した支援を目指す。

(3) 看護部門

- 1) 健康維持、異常の早期発見に努める：日中活動（散歩、日光浴）を励行することでおいしく食事を摂り、安定した睡眠を得られるようにする。
- 2) 整理整頓：転倒の誘因にならないように、歩行器、車いすの置き場所を決める。
- 3) 感染予防Part2：年2回の研修と実施訓練を行う。

(4) 栄養部門

- 1) 報連相をしっかりとPart2：職員や委託業者との連携をしっかりとる。
- 2) 整理整頓Part2：身の回りや防災食の整理をする。

(5) 相談部門

- 1) ケア会議の充実Part2：自己決定支援を進めていくためにもケア会議を開催し利用者様の理解を深め利用者様のしあわせをご家族や関係者と探していく。
- 2) つなぐ・支えるPart2：今まで以上に利用者様・ご家族・職員をつなぎ、お互い支えられる関係になる。地域との交流も増やしていく。

(6) 事務部門

- 1) 事業運営が更に円滑になる：現場職員と連携し、業務が円滑に進むよう事務を行う。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

(1) 利用者主体のサービス（支援）の提供

利用者の意向を把握し、個別支援計画を基にして、一人ひとりの人格を尊重し、その特性に合わせた支援を提供する。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場づくり

心理的安全性が感じられる、職員がこの施設で働くことで成長を実感できるとともに、「どこに行っても通用する職員を育成する」を目標として、平凡なことを当たり前に行える職員を育成する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

	定員	昨年度末 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所 日数	1日平均	利用率
施設入所支援	30	31	99.0	30	365	29.4	98.0
生活介護	30	31	93.0	31	269	28.5	95.0
短期入所	5	13	10.7	15	365	0.7	15.0
日中一時支援			2.7	5			

2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	2	0	28	30

3 職員配置予定（年度当初）

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師
実人数	1	(1)	1	25	1
常勤換算	0.9	(1.0)	1.0	21.0	1.0
	栄養士	事務員	補助員	合計	
実人数	1	1	1	31	
常勤換算	1.0	0.8	0.5	26.2	

*施設長は生活支援センターやまばと兼務、生活支援員の一部はグループホーム兼務、事務員は法人本部を兼務、12月にEPA外国人介護福祉士候補者2名の受け入れ予定

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

(1) 残業について

前年度は月平均で156時間程度、職員一人当たり平均して月5.5時間の残業が発生している。NO残業日の定着、生産性の向上、業務の効率化や改善を進めることによって、少なくとも前年度比減少を目標とする。また、偏りをできるだけ少なくしたい。

(2) 有給休暇取得について

前年度に引き続き80%を目標とする。また、4半期ごとにバランスよく義務化分を取得する。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	明るい未来検討会	メンバー	研修企画、業務の改善、福利厚生の実、環境整備計画等
毎月	主任者会	メンバー	運営に関する重要事項の決定等
毎月	チーフ会	リーダー	支援部門の運営、利用者支援の検討等
毎月	各ケース会	メンバー	各ケースチームによる、利用者支援の検討等
毎月	感染症対策委員会	メンバー	感染症対応についての確認等
毎月	給食委員会	メンバー	給食に関する検討等
年2回	寮全体会	全員	重要事項の共有検討、ケース研究等
年2回	防災委員会	メンバー	訓練の評価、BCPの検討等
年2回	虐待防止委員会	メンバー	事例・チェック結果からの考察等
年2回	身体拘束委員会	メンバー	身体拘束に関する振り返り、検証等
年2回	事故防止委員会	メンバー	ヒヤリハット、事故に関する振り返り、検証等
適宜	広報委員会	メンバー	SNS等事業所の広報に関わる対応等
毎月	法人研修委員会	担当者	法人開催研修の企画、運営等

*その他事業所外の委員会は省略

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

1 生活介護・施設入所支援

散歩などの日中活動、男女交互1週間に3回の入浴支援、利用者の状況に合わせた食事、定期健康診断などの健康管理、個別外出や季節等の行事などを、担当制やチーム支援、個別支援計画などに沿って提供する。

感染症予防に引き続き留意しながらも、実践できる日課や活動、行事を実施していく。

また、外出の機会を出来る限り増やすとともに、ご利用者個々のストレングスに合わせた活動を提供していく。

2 短期入所・日中一時（日帰り短期入所）

相談部門職員等を窓口として、可能な限り牧之原市、吉田町を中心とした地域のニーズに応えた受け入れを行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

会議や面談、研修、掲示板等を通して、理念やサービス提供指針等を伝達し、同じ目標に向かってチームで支援が出来る様に努める。施設長による職員面談は年4回実施する。

また、法人理念をふまえて、事業所が大切にしている、あるいは大切にしたいことをカタチにするために事業所理念を作成する。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

チーム支援の充実を図るために、部門間連携を大切にし、伝わることの実感が得られように取り組む。具体的には、情報がスムーズにタイムリーに伝わるために、メールや記録システム、掲示板を活用する。また、相談部門やリーダー職員を中心としたコミュニケーションがより円滑となるようにする。ケース検討会の充実を図る。また、フォトコンテストの実施を実施する。

3 研修計画

(1) 事業所内研修：明るい未来検討会の研修担当が企画、運営の研修を実施する。

(2) 法人内研修：法人研修委員会等が企画した研修に1企画につき最低1名は出席する。

また、法人内の高齢者部門を含めた他事業所への実習を積極的に行う。

(3) 外部研修：職員1人につき、1回を目標として参加する。Web研修やサポカレ等を積極的に活用する。他事業所の見学を1か所以上行う。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

1 公益的取組み

坂部ふれあいサロンの送迎（運転）協力。内容は、毎月1回、施設車輛を使って、自宅からふれあいサロン会場の坂部区民センターまで送迎を行う。

2 地域との交流

(1) ボランティアの受け入れ

日赤奉仕団のボランティアを年3回、清掃や草取りなどの内容で、また、ちいさな親切運動のボランティアを受け入れる。

(2) 坂2町内会 毎月1回（土日は除く）開催される町内会常会に拠点で出席する。

(3) その他

お祭りなど地域行事、教育機関の古紙回収等への関わりを通して地域との交流を進め関係づくりに努める。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

事業所内で行われる行事については、感染予防に留意しながら可能な範囲で家族を招待し一緒に楽しむ。毎月、ご家族だより「どり〜む」を発行し、事業所からの連絡を定期的に届ける。また、利用者の様子を担当から伝える。年3回のふれあい期間を設け、家族と利用者の交流を目的に一時帰宅をお願いしていく。

また、きずなネット連絡網登録100%を目標として、通知や依頼事項などタイムリーに情報を届けることができるようにする。

G 苦情について対策

前年度苦情件数2件（前年度1月まで）

前年度は、行事外出中の職員の喫煙と支援方法、事業所内行事の時に預かった衣類（プレゼント）の紛失と他利用者の名前が記載されていたことについて苦情を頂いた。相談部門を窓口として、苦情対応については、迅速かつ真摯に対応する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の防止対策

- 1 事故：38件（前年度1月まで）
前年度比で約20%（10件）減少している。引き続き、環境設定を改善することで減らせるように取り組んでいく。また、継続して取り組んでいるアセスメントの見直しや手順書の作成など個々の現状に合ったものを作成し、ニーズと支援内容のミスマッチによる事故の発生を防止する。
- 2 ヒヤリハット：25件（前年度1月まで）
前年度比で約13%（3件）増加している。他傷行為以外にも、転倒やけが、誤嚥のリスクが高いご利用者に多いことから、改めてその行動に至る理由や背景を考え、環境設定を改善することで減らしていく。
- 3 虐待：0件（前年度1月まで）
虐待の芽にあたる気になる支援等はアンケート（虐待チェックリスト）等で報告されていることから、困ったときに「助けて！」と遠慮なく言える、支えあいがある風通しのよい事業所作りを進める。
- 4 身体拘束：2,853件（前年度1月まで）
前年度比で約45%（2,338件）減少している。「施設ゼロ」宣言を継続するとともに、身体拘束委員会を中心として、引き続き見直しを進めていく。また、カギの使用以外にも、ご利用者の視点に立ち、拘束廃止の可否を確認する。

I 防災関連：前年度を振り返っての防災訓練計画/課題の克服など

防火管理者が中心となり、防災訓練を年2回以上実施し、防災倉庫の点検、必要物品の管理を行っていく。また、立地上、土砂災害警戒区域にあたるため、有事に機能することを前提とし、年1回以上は拠点事業所と連携の上で訓練を実施するとともに、前年度に引き続き坂部地区の地域防災訓練に関わりを持つ。

J 環境整備に関する計画

壁や床などの破損設備等の修繕、エアコン・換気扇の定期点検と清掃、床の清掃、建築設備の定期点検、その他経年劣化や機械設備の不具合箇所の修繕 他

K 収支、並びに、借金返済計画

- 1 本年度の収支計画
収入については、万が一欠員が生じた場合の補充は2週間以内に行う。短期入所については、地域の要望に応えるために利用率を意識した取り組みを行う。支出については、昨年度に引き続き、ご利用者が生活しやすく、職員が働きやすく、地域から信頼される環境づくりのために、明るい未来検討会等で検討した整備や修繕等に積極的に対応していく。
- 2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連 必要時は静岡県や関連市町と連携する。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生
社会福祉士、介護福祉士、保育士等の専門職を目指す学生、また、おかえりプロジェクトに関連したインターンシップ等、実習希望は積極的に受け入れる。
- 2 ボランティア
日赤奉仕団、ちいさな親切運動等、行事手伝いや草取り、花植え、窓ふき清掃などの環境整備や周辺業務などの個人ボランティアについても積極的に受け入れていく。

N その他

- 1 システム「ほのぼのMORE」の有効活用
日々の記録や個別支援計画、栄養計画等の情報共有が進み、ご利用者支援に有効活用できるようなシステムを積極的に活用できるようにする。
- 2 静岡県社会福祉サービス第三者評価の受審
本年度は担当者を選任し、職員への周知、準備を経て、年度後半に受審する。

2025年（令和7）年度事業計画

共同生活援助事業所
（介護サービス包括型）
わかば

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標
利用者の想いによりそい一人ひとりにとって、ゆったりと落ち着ける場となれるように温かく家庭的な環境づくりを推進します。
- 2 事業計画
 - (1) 支援の質の向上
ご利用者のニーズを踏まえて作成した個別支援計画に基づき適切な支援サービスの提供に努めます。また、意思決定や合理的配慮に心がけた対応やご利用者の権利擁護、虐待防止の取り組みを推進するために、全体会議や内部研修において職員へ周知徹底します。
 - (2) 関係機関との連携
家族、日中活動先、相談支援等との連携を図り、統一的な支援を行います。また、関係機関との定期的な連絡を図る事により、事業所の情報を伝え地域ニーズに沿ったサービスの提供に努めます。
 - (3) 余暇活動の充実
ご利用者が目標を持って生活し、日々の生活に潤いや生きがいを感じられるよう各種イベントや行事等、企画実施します。なお実施に当たっては感染予防対策と健康管理を基本として、集団感染に配慮した内容で取り組みます。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 私たちの願いを確認する機会を作る
全手の職員が「私たちの願い」を読み、日々行われる支援を振り返る機会をつくる。毎月行われる全体会議の場において、唱和する。
 - (2) 利用者の立場に立ったサービスを提供する
ご利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供する。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする
ご利用者の立場で希望を叶える、課題を解決するために積極的に働きかけが出来る人材を育成します。自施設だけでなく、関係する機関と連携しご利用者様の生活の質の向上を目指します。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く
大規模災害を想定し、近隣施設と合同の総合的な訓練実施を呼びかけ実行する。単独訓練の場合でも応援を要請し、離接施設の訓練にも参加できるよう日常から連携を視野に入れた支援協力を実行する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度末の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	1日平均	利用率
10	9	87.2%	10	365	9.8	100

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	1	1	5	2

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	1	3	5	1	12

常勤換算人数	0.25	0.25	2.9	1.9	0.2	5.5
--------	------	------	-----	-----	-----	-----

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

(1) 残業について

前年度は1ヶ月平均19.0時間、職員一人当たり換算1ヶ月1.7時間の残業が発生している。業務の偏りによる時間外業務が発生している。業務負担を適正に近づける事で時間外業務の軽減を目指す。

(2) 有給休暇取得について

前年度取得率は56.0%程度となっている。今年度も勤務状況を見ながら義務消化分について計画的な取得を進める。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
月1回	職員会議	行事計画、ヒヤリ・事故報告、利用者ケース検討等
月1回	施設内検討会	業務の評価・改善・検討等
年2回	施設内虐待防止会	事例・チェック結果からの考察、研修等
年2回	施設内感染症委員会	事例・チェック結果からの考察、研修等
年2回	施設内防災委員会	定期訓練の振り返り、防災整備等
年2回	法人苦情解決委員会	苦情報告、ケース検討等
年2回	法人事故防止委員会	事故・ヒヤリ報告、ケース検討等
年2回	法人虐待防止委員会	虐待事例報告、ケース検討等
12月	集団指導	実地・書面指導の留意点等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

1 意思決定支援の理解を進める

- ・利用者自身の意思が反映された生活が可能となるように、活動の選択肢を増やす。
- ・利用者の「やりたい・したい」を引き出しやすい環境を整える。家族との面会を求め、ご利用者も多く、帰宅だけでなく、施設で行われる行事に参加を求め家族と触れ合う機会を作る。

2 社会参加を進める

日常生活の充実を目指し社会資源を積極的に活用する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全職員	会議時に「わたしたちの願い」読み合わせ

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 施設の取組等に関して施設職員が集まる全体会議で伝達する。掲示板等を利用し、伝達事項の漏れをなくし、確認がしやすい環境を整える。
- (2) 法人主催の研修、委員会に多くの職員の参加を進める。職員自身が役割・責任感を持ち、施設運営に関わっている意識を高める。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	年2回	虐待防止	10	年2回	感染症対策	10
	年2回	防災(BCP)	10	月2回	サポカレ研修	10
法人内研修	6/7	新年度研修	3			
	—	障害特性	—	—	障害高齢者支援	—
外部研修	—	意思決定支援	—	—	防災	—

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

毎月（第1日曜日）の海岸清掃ボランティア参加の継続。施設から発信する活動について、自分たちが地域に対して何が出来るか考え、継続できる活動を検討・実行する。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

- 1 3ヶ月毎、施設の様子をお便りとして家族に届ける。
- 2 感染状況に応じて面会制限は実施するが、警戒する必要がない場合には家族と関わる機会を増やしていく。また、施設行事についても参加を呼びかけ、ご家族が訪れやすい施設という事を働きかけていく。

G 苦情について対策

前年度苦情件数0件

- 1 苦情申し立てがあった場合は事実に基づき、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応する。
- 2 定期的な家族への連絡期間を見直し、利用者家族とのコミュニケーション不足にならないように努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の防止対策

- 1 事故：12件（前年度）
事故内容は転倒に関連する事故が多く、特定利用者の対応が課題となっている。防げる事故・対策できる事故を確実に防ぐことを目標に事故の減少を目指す。
- 2 ヒヤリハット：4件（前年度）
事故を防ぐ気付きとしてもヒヤリハット報告を活用していく。快適な生活環境を提供する為にも、事故の芽を摘んでいく。
- 3 虐待：0件（前年度）
(1) 虐待の通報があった場合には、法人の虐待防止規定に基づき速やかに対応する。
(2) 不適切な支援を放置することで、不当な拘束にエスカレートするという認識から、チェックリストを年2回実施し、職員それぞれが支援の振り返りを行いその結果も参考にして適切な支援を検討する。
- 4 身体拘束：0件（前年度）
身体拘束が必要と考えた場合においても、本当に代替する方法がないのか検討し、身体拘束する事のリスクの理解に努め、身体拘束ゼロに向けての取り組みを継続する。

I 防災関連：前年度を振り返っての防災訓練計画/課題の克服など

- ・土砂災害警戒区域であるため土砂・浸水災害を想定した訓練を定期的実施し、要配慮者利用施設避難確保、BCPに対応した訓練等も実施する。
- ・消防署等関係機関に依頼し火災通報装置を使った訓練、消火訓練を実施する。
- ・災害時、情報収集や連絡手段を絶たない為に、ポータブル電源の購入を進める。

J 環境整備に関する計画（施設点検や100万円以上の修繕や改装など） 予定なし

K 収支、並びに、借金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
(1) 前年度は空所期間が長くなったことが大きな減収の要因となっている。待機者リストの見直し等により、空所が発生した場合にその期間を短くする。
(2) 重度加算取得を目指し、強度行動障害支援者養成研修の参加を進める。
- 2 借入金償還計画 特になし。

L 主務官庁との関連

実地指導が予想される。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

希望するボランティアの受け入れを進める。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

地域連携推進会議の開催により地域とのつながりを深める。

2025 年（令和 7）年度事業計画

共同生活援助事業所
（介護サービス包括型）
もくれん

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標

利用者の想いによりそい一人ひとりにとって、ゆったりと落ち着ける場となれるように温かく家庭的な環境づくりを推進します。
- 2 事業計画
 - (1) 支援の質の向上

ご利用者のニーズを踏まえて作成した個別支援計画に基づき適切な支援サービスの提供に努めます。また、意思決定や合理的配慮に心がけた対応やご利用者の権利擁護、虐待防止の取り組みを推進するために、全体会議や内部研修において職員へ周知徹底します。
 - (2) 関係機関との連携

家族、日中活動先、相談支援等との連携を図り、統一的な支援を行います。また、関係機関との定期的な連絡を図る事により、事業所の情報を伝え地域ニーズに沿ったサービスの提供に努めます。
 - (3) 余暇活動の充実

ご利用者が目標を持って生活し、日々の生活に潤いや生きがいを感じられるよう各種イベントや行事等、企画実施します。なお実施に当たっては感染予防対策と健康管理を基本として、集団感染に配慮した内容で取り組みます。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 私たちの願いを確認する機会を作る

全手の職員が「私たちの願い」を読み、日々行われる支援を振り返る機会をつくる。毎月行われる全体会議の場において、唱和する。
 - (2) 利用者の立場に立ったサービスを提供する

ご利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供する。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする

ご利用者の立場で希望を叶える、課題を解決するために積極的に働きかけが出来る人材を育成します。自施設だけでなく、関係する機関と連携しご利用者様の生活の質の向上を目指します。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く

大規模災害を想定し、近隣施設と合同の総合的な訓練実施を呼びかけ実行する。単独訓練の場合でも応援を要請し、離接施設の訓練にも参加できるよう日常から連携を視野に入れた支援協力を実行する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度末の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	1日平均	利用率
10	10	98.7	10	365	10	100

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	6	3	1

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	1	2	11	1	16

常勤換算人数	0.25	0.25	2.0	5.0	0.2	7.7
--------	------	------	-----	-----	-----	-----

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

(1) 残業について

前年度は1ヶ月平均40.0時間、職員一人当たり換算1ヶ月2.6時間の残業が発生している。業務の偏りによる時間外業務が多く発生している。業務負担を適正に近づける事で時間外業務の軽減を目指す。

(2) 有給休暇取得について

前年度取得率は28.0%、取得率としては50%を目指す。義務消化分についても年度当初より計画的な取得を進める。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
月1回	職員会議	行事計画、ヒヤリ・事故報告、利用者ケース検討等
月1回	施設内検討会	業務の評価・改善・検討等
年2回	施設内虐待防止会	事例・チェック結果からの考察、研修等
年2回	施設内感染症委員会	事例・チェック結果からの考察、研修等
年2回	施設内防災委員会	定期訓練の振り返り、防災整備等
年2回	法人苦情解決委員会	苦情報告、ケース検討等
年2回	法人事故防止委員会	事故・ヒヤリ報告、ケース検討等
年2回	法人虐待防止委員会	虐待事例報告、ケース検討等
12月	集団指導	実地・書面指導の留意点等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

1 意思決定支援の理解を進める

- ・利用者自身の意思が反映された生活が可能となるように、活動の選択肢を増やす。
- ・利用者の「やりたい・したい」を引き出しやすい環境を整える。特に家族との面会を求めると利用者も多く、施設での面会だけでなくタクシーなどの身近な社会資源を活用も視野に入れ、面会・一時帰宅の機会を増やしていく。

2 社会参加を進める

日常生活の充実を目指し社会資源を積極的に活用する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全職員	会議時に「わたしたちの願い」読み合わせ

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 施設の取組等に関して施設職員が集まる全体会議で伝達する。掲示板等を利用し、伝達事項の漏れをなくし、確認がしやすい環境を整える。
- (2) 法人主催の研修、委員会に多くの職員の参加を進める。職員自身が役割・責任感を持ち、施設運営に関わっている意識を高める。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	年2回	虐待防止	10	年2回	感染症対策	10
	年2回	防災(BCP)	10	月2回	サポカレ研修	13
法人内研修	6/7	新年度研修	3			
外部研修	—	障害特性	—	—	障害高齢者支援	—
	—	意思決定支援	—	—	防災	—

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

毎月（第1日曜日）の海岸清掃ボランティア参加の継続。施設から発信する活動について、自分たちが地域に対して何が出来るか考え、継続できる活動を検討・実行する。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

- 1 3ヶ月毎、施設の様子をお便りとして家族に届ける。
- 2 感染状況に応じて面会制限は実施するが、警戒する必要がない場合には家族と関わる機会を増やしていく。また、施設行事についても参加を呼びかけ、ご家族が訪れやすい施設という事を働きかけていく。

G 苦情について対策

前年度苦情0件

- 1 苦情申し立てがあった場合は事実に基づき、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応する。
- 2 定期的な家族への連絡期間を見直し、利用者家族とのコミュニケーション不足にならないように努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の防止対策

- 1 事故：41件（前年度）
情緒不安による突発的な行動や身体能力の低下によるふらつき、てんかん発作等、様々な理由での転倒事故が発生しました。ご利用者の状況・状態の変化を周知して行動を予測し、防げる事故・対策できる事故を確実に防ぐ事を目標に事故の減少を目指す。
- 2 ヒヤリハット：26件（前年度）
てんかん発作に関わる転倒未遂が多く予測が困難ですが、被害を最小限で抑える取り組みを検討・実行していきます。
- 3 虐待：0件（前年度）
(1) 虐待の通報があった場合には、法人の虐待防止規定に基づき速やかに対応する。
(2) 不適切な支援を放置することで、不当な拘束にエスカレートするという認識から、チェックリストを年2回実施し、職員それぞれが支援の振り返りを行いその結果も参考にして適切な支援を検討する。
- 4 身体拘束：0件（前年度）
身体拘束が必要と考えた場合においても、本当に代替する方法がないのか検討し、身体拘束する事のリスクの理解に努め、身体拘束ゼロに向けての取り組みを継続する。

I 防災関連：前年度を振り返っての防災訓練計画/課題の克服など

- ・日中・夜間における火災想定避難訓練を定期的実施し、要配慮者利用施設避難確保、BCPに対応した訓練等も実施する。
- ・消防署等関係機関に依頼し火災通報装置を使った訓練、消火訓練を実施する。
- ・災害時、情報収集や連絡手段を絶たない為に、ポータブル電源の購入を進める。

J 環境整備に関する計画（施設点検や100万円以上の修繕や改装など） 特になし。

K 収支、並びに、借金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
(1) 今年度は高齢になったご利用者の施設への移動が予測される。待機者リストの見直し等により、空所が発生した場合にその期間を短くする。
(2) 重度加算取得を目指し、強度行動障害支援者養成研修の参加を進める。
- 2 借入金償還計画 特になし。

L 主務官庁との関連

実地指導或いは書面指導が予想される。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

希望するボランティアの受け入れを進める。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

地域連携推進会議の開催により地域とのつながりを深める。

2025（令和7）年度事業計画

共同生活援助事業所
（介護サービス包括型）
みぎわ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標

利用者様にとっては住み心地の良い、地域の皆様にとってはあつてうれしい、職員にとっては働きやすい事業所をつくります。利用者様の社会参加、余暇活動を支援していきたい。今後の利用者、職員確保に取り組んでいきたい。
- 2 事業計画
 - (1) 専門性の向上を更に目指す

質の高いサービスを提供するため、職員の専門性向上と精神的成長のため、さまざまな研修に参加し自己研鑽する。
 - (2) システムをより積極的に活用する

記録、情報共有を記録システム等を活用して、支援の向上に繋げる。
 - (3) 3事業所が連携し、いつでも協力体制がとれる

3事業所が、お互いがスムーズな協力関係を発揮できるように、関連する事柄（研修や防災、業務応援等）を協力して行うよう進めていく。
 - (4) 外部機関と連携する

計画相談、他グループホーム、行政とも情報共有を行ない地域のニーズを把握して備えていく。感染状況についても情報共有して予防につとめていく。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 私たちの願いを確認する機会を作る

全ての職員が、私たちの願いを口に出して読む機会を作る。具体的には会議時に唱和、サービス提供指針の読み合わせ等を行なう。
 - (2) 利用者の立場に立ったサービスを提供する

ご利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供する。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員が働きやすくて楽しい、秩序ある職場づくり

法人内外の研修への参加、動画視聴研修の積極的な活用、施設会議や研修で職場の見直し、改善を進めていく。
 - (2) 防災の充実

BCPをより具体的にする為、机上訓練、実技訓練を行なっていく。昨年の訓練で不足していた光源の確保等取り組んでいく。人手物資が不足した状況での訓練も計画していく。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度末の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	1日平均	利用率
10	10	97%	10	365	9.7	97%

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	1	2	2	5	0	10

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	1	3	6	1	12
常勤換算人数	0.1	0.1	1.8	2.5	0.9	5.3

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

(1) 残業について

前年度は1か月平均で10時間程度、職員一人当たり平均して1か月に約1時間の残業が発生している。会議が主な理由であった。昨年度から1ヶ月平均30時間程度減らすことが出来た。昨年度は移行利用者の引っ越し対応があった。

(2) 有給休暇取得について

昨年取得率は、全職員平均して50%程度となっている。今年度は公休数が増えているので勤務状況を見ながら、4半期ごとにバランスよく義務化分を取得する。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内 容
月1回	職員会議	行事計画、ヒヤリ事故報告、利用者ケース検討等
適宜	島田市くらし部会	島田市内の福祉事業所で福祉課題を検討
年2回	施設内虐待防止会	事例・チェック結果からの考察、研修等
年2回	施設内感染症委員会	事例・チェック結果からの考察、研修等
年2回	施設内防災委員会	事業所BCP等の検討、防災整備等
年2回	法人苦情解決委員会	苦情報告、ケース検討等
年2回	法人事故防止委員会	事故・ヒヤリ報告、ケース検討等
年2回	法人虐待防止委員会	虐待事例報告、ケース検討等
12月	集団指導	実地・書面指導の留意点等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

余暇支援として、散歩、ドライブ、カラオケ、毎月季節の行事、誕生会等を行なう。利用者に職員と配膳や掃除など、一緒に行って施設内で他者の役に立てていることを感じてもらう。利用者との日頃の会話の中から「やりたい・したい」を引き出していきたい。感謝の言葉を多く掛ける場面をつくっていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全職員	会議時にわたしたちの願いの読み合わせ

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

職場内の物や情報を整理整頓して、分かりやすい環境を整えていく。職員同士があいさつ、感謝の言葉を交わし合うように意識していく。毎月重点目標で、職員に意識して取り組んでもらう。上長から細目に職員へ声を掛けていく。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
事業所内研修	年2	身体拘束、虐待防止	10	年2	感染症、防災	10
法人研修		施設長研修	1			
		事例検討会	1	6/7	新年度研修	5
施設外研修		サビ管基礎研修	1		意思決定セミナー	1
		コンプライアンス講座	1		ストレスマネジメント	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

1 公益的取組み

島田市社会福祉協議会を通して、大津地区住民の「買い物支援」。内容は、公用車の提供。

2 地域との交流

お祭りなど地域の催しへの参加や、ここにしまだクリーン大作戦に参加し、清掃活動を行う。

3 法人の地域交流地域貢献事業（喫茶、しまだっ子との交流）への利用者、職員参加。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

保護者懇談会を開催し、情報の伝達や共有を行う。また、みぎわだよりを毎月発行し、情報提供を行う。絆ネットやメールを通して情報をタイムリーに提供する。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数 0 件

事業所側からの情報提供不足が原因で、家族等に不安や不信感を与えてしまう為、積極的かつ迅速に情報提供を行っていく。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

1 事故：11 件（前年度）

月 1 回程度発生している。転倒事故が複数回あり、滑りやすい環境の影響が複数回あった。環境面からも対策をして、タイムリーに情報共有し 1 件でも多く、事故を減らしたい。

2 ヒヤリハット：24 件（前年度）

季節の変わり目に複数回ヒヤリハットが発生している。小さな異変に気付ける目を養っていく。前年度よりヒヤリハットに気づき記録に残せて、大きな事故予防になっていた。

3 虐待：0 件（前年度）

不適切な支援の芽が発生しにくいように、気が付いた時に、職員同志がお互いに声をかけあうことが出来る職場づくりを進める。働きやすい、楽しい、余裕がある職場をより目指していく。

4 身体拘束：6 件（前年度）

他利用者のこと、物が気になり興奮状態があり、自他共の安全の為一時居室でのクールダウンを行なった。研修等を年 2 回行ない、職員の意識、理解を深めてゼロになる様に取組んでいく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

前年度同様に、防火管理者が中心となって、日中や夜間における火災想定での防災訓練を定期的に実施し、要配慮者利用施設避難確保、BCP に対応した訓練も行っていく。

土砂災害警戒区域にあたることを踏まえた防災計画を 3 事業所連携のうえより具体化する。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

予定なし。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

収入については、前年度当初 4 ヶ月定員変更前の基準による支給、報酬改定による減収があった。重度障害者加算など年度途中で取得したので、今年度より増益が見込まれる。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

静岡県福祉指導課による実地指導が、前回から 7 年目となるため実施が予想される。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

前年度同様に法人内の他事業所からへの実習依頼があれば受ける。

2 ボランティア

草取り、清掃などの環境整備や周辺業務等のボランティアについて、希望者を積極的に募る。社会福祉協議会への登録を行なう。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2025 年度より地域連携推進会議の開催が義務化されたことに合わせて、地域とのつながりを深めていく。

2025（令和7）年度事業計画

生活介護
ケアセンター花もも

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標
「利用者・職員ともに 元気よく、機嫌よく、笑って過ごそう！（働こう！）」
- 2 事業計画
 - (1) 利用者・職員が安心して過ごせる（働ける）為に環境面の整備及び研修等を実施し障害特性の理解を深め、定量化な支援に努める
 - (2) 事務処理の効率化を目指し ICT の導入を検討
 - (3) 研修や行事などを通じて他事業所との活発な交流の機会を設ける
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 朝礼、職員会議などを利用し法人理念を学び理解する機会を設ける
 - (2) サロン送迎、エコ活動を通じ地域貢献に努める。また、積極的に地域の催事に参加し交流の機会を設ける
 - (3) インスタグラム、FB などの SNS を用いて事業所活動の啓発に努めるとともに随時更新を行い旬な情報の提供を実施。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 防災の充実
備蓄品の充実と送迎時の防災に備え研修を実施。また近隣事業所との協働を目指す

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年の登録者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	19	80.8	20	253	17	85

- 2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	2	11	7	20

- 3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	8	1	0	1	12（兼務2名）
常勤換算	0.2	1	6.8	0.5	0	0.3	8.8

※職員配置加算Ⅲを目指す

- 4 残業と、有給休暇取得に関する計画
 - (1) 事務作業の時間を計画的に日課に組み込む。
 - (2) 計画的な有給取得を実行し有給率70%を目標とする

- 5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
毎月	職員会議・ケース会	行事計画、ヒヤリ事故身体拘束感染報告、利用者ケース検討・研修報告等
	給食委員会	食事内容 摂取状況 提供方法等 調理員、栄養士との意見交換情報共有
隔月	給食検討委員会	給食全般について委託業者、栄養士との意見交換、情報共有
2回/年	法人防災委員会	事業所 BCP の検討

	法人事故・ヒヤリ防止委員会	事故報告検討、意見交換
	法人苦情解決委員会	各事業所の苦情に関する検討
	法人虐待防止委員会	虐待事例報告・ケース検討等
	自立支援ネットワーク	地域課題の検討・課題共有

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 四季折々の年間行事（運動会・納涼祭・ハロウィン・クリスマス会等）やクラブ活動など、利用者の思いを尊重し自己選択、自己決定を基に計画・実行していきたい。
- 2 地域の催事にご利用者の作業品を出展するとともに利用者の活動を多くの人たちに知っていただけるような機会に努める

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼で『わたしたちの願い』を読み合わせる
職員会議			会議にてサービス提供指針を読み合わせる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 1人で悩み事を抱える事なくお互いに助け合い誰もが自分らしく働ける職場環境を目指す

- 3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	身体拘束・虐待防止研修	感染症講座
	サポカレ障害特性等	防災研修
法人研修	管理者研修	新年度研修
	虐待研修	主任・リーダー研修
施設外研修	強度行動障害支援者養成研修	県社協研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
毎月	坂部サロン参加者送迎	職員1名
適宜	エコ活動 (使用済み切手、エコキャップ・空き缶収集)	利用者 職員
9月	坂口谷川かかし祭り	利用者 職員
10月	坂部区民センター文化祭 作品出展	利用者 職員
	地域貢献活動（喫茶ほとり祭り出展）	利用者 職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
2回/年	保護者会	保護者、職員
年数回	施設行事への招待	保護者、利用者、職員

G 苦情について対策

- 1 前年度苦情件数3件
家族からの連絡に事業所からの返答が送れたことに対する苦情
- 2 当年度は、家族からの連絡には時間を置かず早めの返信を心がけるとともに連絡内容は必ず再確認を行うようにするまた、送迎や受け渡しの際など傾聴に努め保護者とは普段から話しやすい関係性を築くとともに地域の方へ気持ちの良い挨拶を心がける

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：12件（前年度）

エリア分けを継続し該当する利用者同士が接触する時間帯を減らし他害件数の減少に努める

- 2 ヒヤリハット：133 件（前年度）
声掛けの仕方、タイミングに留意し他傷に繋がらないようにする
- 3 虐待：0 件（前年度）
虐待防止チェックリストを年 2 回実施しセルフチェックを行う。
施設内研修で年 1 回虐待研修を実施（全職員対象）
- 4 身体拘束：1243 件（前年度）
車いす使用時、体幹保持為の胸・腰ベルトやテーブルの使用などについては医師の診断書や家族の同意書を得るとともに、記録を取りケース会及び職員会にて身体拘束の必要性、拘束時間の短縮について話し合う機会を設ける

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 送迎時の防災対策（避難方法・連絡方法など）について計画・訓練（机上訓練含める）を実施
- 2 毎月行われる「安否確認コール」の返信を確実にし災害に備える
- 3 災害時に必要とされる防災用品のチェック及び補充

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

- 1 フローリングのクリーニング（1 回/年）及び外周害虫駆除（5 回/年）
- 2 消防設備点検
- 3 浄化槽点検（真菜と合同で実施）
- 4 貯水池清掃（聖ルカと合同で実施）

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
重度障害者支援加算の取得
- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生：支援学校、榛原中学校、清流館高校等の職場体験実習
インターンシップの受入れ
- 2 ボランティア：おはなしぽっぽ（読み聞かせ）
- 3 外部講師：笑いヨガ 音楽教室

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2025（令和7）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標

地域に根差した生活介護事業所として、地域のニーズの把握に努めるためにも地域の様々な活動や行事に参加する。また、事業所内に於いても様々な活動を通して多くの経験が生まれるように工夫していく。
- 2 事業計画
 - (1) 3事業所間における協力体制の整備

野ばらと GH みぎわで職員が兼務をすることで、スムーズな情報共有を図る。また、垂穂寮がクラスター等になった場合はBCPを発動し、協力体制を整える。
 - (2) 生産性の向上を目指した環境整備

ICTを活用し業務の効率化、支援内容を検討精査し、働きやすい環境を作る。
 - (3) 地域との連携

垂穂寮と協力し、島田市社会福祉協議会を通して、大草市営住宅団地住民の「買い物支援」の為に公用車を提供する。また地域の行事等に積極的に参加し、障がい福祉の認知を高めていく
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 支援の統一性について

「サービス等利用計画」や「個別支援計画」を基として支援の方向性を全体で共有する。また、PDCAサイクルを意識しながら、通所会議で話し合い、職員全員で共通認識を図る
 - (2) チーム支援について

毎月のケース会で検討した内容を通所会議にて報告し、全体で共有・検討を行っていく。各職員に諸分担の担当を配置し、チームとしての意識を高める。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 人材育成

施設内研修として障がいに対する知識や、意思決定支援に関して学ぶ場を作る。
 - (2) 情報の発信

幅広い世代を対象に、こまめにHPを更新する。Facebook やインスタグラムを活用する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度末の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	1日平均	利用率
20	20	91.3	20	253	18	86

2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	1	8	10	20

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	14	1	1	1	16
常勤換算人数	0.1	0.5	7.4	0.1	1.0	1.0	10.1

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

- (1) 残業について

前年度は1か月平均で21時間程度となった。職員一人当たりの平均は1.6時間

発生している。職員別の残業発生に偏りがあるため出来るだけ少なくしたい。

(2) 有給休暇取得について

昨年度の有休取得率は約70%だが、職員別で偏りがある。ライフワークバランスを整えるために、各職員の有休取得割合を平均化していくように調整する

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	通所会議	全職員	重要事項の共有、ケース、その他の検討事項等
毎月	生活ケア部会	伊藤	生活ケア部門における共有、検討等
毎月	A・B各ケース会	メンバー	各ケースチームによる、利用者支援の検討等
適宜	ソフトスタッフ会議	常勤職員	行事、利用者支援等に関する検討等
適宜	給食委員会	調理員	給食に関する検討等
年5回	くらし部会	サビ管	暮らしに関わる課題の整理と在り方の検討等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

野ばらの会（レクリエーション）や、偶数月のおやつ、奇数月の野ばらカフェ、毎月1回のレクダンス、リフレクソロジー、絵画教室、理学療法士の来所や年に1回のクッキング、七夕の会、秋祭り、クリスマス会、節分の会、作業リハビリ昼食会を行うとともに、昨年度同様に、エンジョイプラン（外出行事）、スノーブレンを継続して実施する。また、今年は、保護者と一緒に食事会を予定している。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
適宜	私たちの願い唱和	全職員	打合せや会議の時に皆で唱和する

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

9月にチームワーク形成等を目的とした施設職員研修を実施する

3 研修計画

(1) 事業所内研修

ソフトスタッフが企画した内容の研修を年2回実施する。内容としては職員のスキルアップ、ケースを通して意思決定支援などを学ぶ研修を企画する。またサポカレを活用して短時間で勉強できる機会を提供する

(2) 法人内研修

法人研修委員等が企画した研修に1企画最低1名は出席する

(3) 外部研修

職員1人につき、1回を目標とする。Web研修や他事業所の研修や実習等を検討し、積極的に参加する。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

1 公益的取組み

垂穂寮と協力し、島田市社会福祉協議会を通して、大草市営住宅団地住民の「買い物支援」の為に公用車を提供する

2 地域との交流

(1) 市内小中学校との交流 大津小学校の入学式、卒業式への代表者の参加 等

(2) にこにこしまだクリーン大作戦に参加し、清掃活動を行う。またその他の行事等があれば積極的に参加する

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

月に1回開催される保護者会に参加し、情報を発信・共有をしていく。また、野ばらだよりにてご利用者の様子等の情報提供を行う。きずなネット連絡網を活用して、適宜に情報提供が出来るように努める

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数1件（前年度）

連絡ノート書き方により、受け取ったご家族との間に差異が生じ、不快な思いをさせて

しまった。発信する際は、受け手を意識し、ご利用者やご家族とのコミュニケーションを密にして苦情案件の発生を予防する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（できるだけ項目別に記す）

- 1 事故（前年度 39 件）
前年度は転倒、盗食、他害行為が多く見られた。転倒や、盗食は見守りを強化し、また随時 KYT(危険予定トレーニング)研修を行い検討する場を設ける。他害に関しては、利用者の障害特性の理解を深めることで同様の事故が起こらないように努めて行く。
- 2 ヒヤリハット（前年度 39 件）
前年度も転倒に関するヒヤリハットが多かった。職員間で情報共有し、即座に対応できる体制を整えていくように努める。無断外出に関しては、利用者の状況を把握し、職員間で声を掛け合い見守る。忘薬はダブルチェックが機能しヒヤリで済んだことから、日々の業務を確実にやり、事故につながらないようにしていく。
- 3 虐待 0 件
虐待チェックシート等を活用し、虐待の芽を早めに摘む。また業務改善により職員 1 人 1 人の負担を軽減する事で虐待に繋がらない形を目指して行く
- 4 身体拘束（前年度 220 件）
身体拘束の 3 要件に適用されているかどうかをケース会や職員会議等で話し合う。また権利擁護等の研修を最低 1 回実施し職員の意識を高める。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

毎月 1 回火災 or 地震を想定して実施する。引き続き、防災の BCP に関しての訓練/研修を行い、今年度 3 事業所での BCP の統一を図り協力体制を整える。原発対応マニュアルの整備と実態に合わせた訓練を実施する。備蓄品を随時確認していく。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

修繕に関して建築から 25 年が経ち、屋根のトップライトの交換が必要になってきている。併せて照明器具の LED へ順次交換、PC4 台リース変更などの予定がある。
通常の建築設備・エアコン・消防設備の定期点検 他

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
前年度はコロナによる大規模なクラスターもなかったため、前年度と比較し、大きな変化はなかった。しかし、利用者の高齢化に伴い高齢への移行を予定している方もいる為、利用率の減少が見込まれる。
- 2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

静岡県福祉指導課による実地指導が、前回から 6 年目となるため実施が予想される。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生
前年度同様に法人内の他事業所や教育機関、または、特別支援学校からの実習依頼があれば受け入れる
- 2 ボランティア
支援員ボランティアや環境整備や周辺業務などのボランティアについて受け入れる

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 GH みぎわとの兼務職員について
引き続き日中や夜間帯での協力体制を強化し、人件費率や常勤換算を考慮しながら、管理者や職員のワークライフバランスを整える。

2025（令和7）年度事業計画

生活介護 ケアセンターかたくりの花

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画に沿って事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標
「ご利用者ご家族そして職員が笑顔で過ごし、大切な人に笑顔で感謝を伝える。」
- 2 事業計画
 - (1) ご利用者一人ひとりの小さなサインを観察し受けとめ意思決定支援に繋げ、達成感と満足度アップそして安心安全な日中活動に努める。
 - (2) 「ムリ・ムダ・ムラ」を無くし職員の負担を軽減できるように業務内容を見直す。業務だけでなく整理整頓や環境整備にも繋げることで、働きやすい環境を整える。
 - (3) Facebook や Instagram などの SNS を用いてかたくりの花のご利用者、職員、事業所の活動を啓発に努めると共に、情報提供を更新する。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
ご利用者・ご家族には個別支援計画を基に支援提供をする。職員はミーティング時にサービス提供指針・服務心得の読み合わせを繰り返し行い、ご利用者や職員そして地域の人達を大切にする法人基本理念を学び共通認識を高める。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員の成長：法人内外の研修とサポカレを受講し意識を高めると共に、誰もが得意分野や各々の良さを発揮し、互いを認め合い助け合いレベルアップに努める。
 - (2) 防災の充実：有事に備え繰り返し訓練を実施することで課題点を挙げ改善し、訓練内容を充実させ防災体制を築く。建物点検は第三木曜日実施を継続する。災害時の感染症対策と原子力災害避難計画の見直しも行う。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年末の登録者数	昨年の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率見込み
20	20	87.6	20	253	18	90%

区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	2	10	8	20

- 2 職員配置予定2月末の実績ではなく、4月から必要とする人数（常勤換算）を記入する

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	12（兼務1）	1	0	1	15
常勤換算人数	0.4	0.6	8.7	0.3	0	0.3	10.3

- 3 残業と、有給休暇取得に関する計画

- (1) ケース会議時に必要な資料や行事準備については、勤務時間内に取り組めるように調整する。毎週火曜日のノー残業デイを継続する。
- (2) 前年度の有給取得率は55%となっている為70%目標とする。
全職員が平均して取れる様にバランスを見ながら声掛けと調整を行っていく。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内 容
毎月	職員会議	行事計画・ヒヤリ事故身体拘束報告・利用者ケース検討 等
毎月	ケース会議	個別支援計画進捗状況・利用者ケース検討等
年2回	法人苦情解決委員会	各事業所の苦情に関する報告検討
年2回	法人事故防止委員会	各事業所の事故・ヒヤリに関する報告検討
年2回	法人防災委員会	事業所BCPの検討
年4回	志太榛原圏域部会	重症心身障害児者支援専門部会・しだはい、はなそ〜かい
年4回	くらし部会	島田市での暮らしに関わる課題と整理検討
年4回	重症心身障害児者支援部会	島田市で安心して暮らせるために現状を知り繋げる

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 音楽活動、スノーズレン、動作法、リフレクソロジー、セラピューティックケア等を通して、ご利用者の意思決定を尊重し心癒され満足度アップへと繋げる。
- 2 個別外出の中で体験や季節の行事を通して充実した楽しさを提供する。
- 3 口腔ケアと衛生面についても個々に応じて支援提供する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
朝 職員会議	理念の継承	全員	朝礼や職員会議にて理念やサービス提供指針を読み合わせる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 気持ち良い「あいさつ」と困っている時に「協力応援お願いします。」と言える環境を作り、誰もが発言し安心して働ける職場を目指します。

- 3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	防災研修・感染症講座	事故・ヒヤリ研修
	虐待防止・身体拘束の学び研修	行動障がい・てんかん発作を学ぶ
法人研修	新年度研修	管理者研修
	虐待研修	主任者等研修
生活ケア研修	防災・感染症等	各事業所主催研修
施設外研修	専門性の向上	県社協研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
2回/月	散歩道のゴミ拾い	職員10名、利用者19名
1回/月	地区のアルミ缶回収とステーション整理	職員2名、利用者4名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
3回/年	保護者会	職員、保護者
毎月	風さゆる・月の支援計画配布	保護者、ご利用者
2回/年	夏祭り・クリスマス会招待	近隣お年寄り、保護者、利用者

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数1件

前年度の苦情や要望の振り返りと事業所の取り組みは、苦情になる前の対応として毎日朝帰りの送迎時に、健康状態の確認と合わせて気になる事や困っている事が無いかの声

掛けを実施。確認事項は管理者に報告し速やかにかつ丁寧な対応を継続する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：前年度 1 件
玄関自動ドアに突進し勢いよく頭をぶつける事故があった為、介助バーを持つ又は座って落ち着いて靴を履き替える様にベンチ 2 台設置。慌てず落ちついて支援に当たる。
- 2 ヒヤリハット：前年度 63 件
2024 年度服薬忘れが 3 件ありダブル、トリプルチェックにより発見された為、服薬マニュアルの見直しと確認そして周知徹底を行う。
- 3 虐待：前年度 0 件
不適切対応は、その場で不適切であることを伝える勇気を持つ。問題行動対応はチームで取り組み詳しく時系列で記録を取る。子ども扱いをしない声掛けを行う。
- 4 身体拘束：前年度 1225 件（移動困難支援 3 件含む）
車椅子腰胸ベルトとブーメラン枕や移動困難者対応は、家庭からの同意書に基づき対応し連絡ノートにて家庭連絡を行う。記録は月集計し報告と安全確認を行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 本年度も前年度同様に、防火管理責任者が中心となって、防災避難訓練（火災・地震）を毎月実施する。また、防災倉庫・備品の整理整頓と管理を行う。
- 2 1 回/年引き渡し訓練を実施。
- 3 希望の家防火管理者立ち合いの建物点検時に確認した修繕箇所については検討する。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

- 1 防災対応：食堂からの火災発生時に作業棟からの避難路が無く防災訓練時に危険を確認した。デイ室テラス側を避難通路として確保する為改修工事を予定。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
人員配置体制加算 2:1 から 2.5:1 に変更。また、他事業所併用者 2 名（区分 6）利用日数減により収入減の為、登録定員 20 名を超えるが受け入れの声掛けをする。
- 2 借入金償還計画
なし。

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生
特別支援学校等職場体験を受け入れる。
常葉大学保育学部実習を受け入れる。
- 2 ボランティア
(1) 岩本造園さんによる庭の草木の手入れ（2 回/年）。
(2) 絵本や紙芝居の読み聞かせボランティアを積極的（1 回/月）に受け入れる。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2025（令和7）年度事業計画

就労継続支援A型 ワークセンターカサブランカ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「利用者、職員が共に安心、安全に働き、希望を持てる事業所を目指す」
- 2 事業計画
 - (1) 職員育成、体制・業務の見直し
福祉事業所並びに就労支援の事業所の職員としてふさわしい接遇、関わり方を職員全員で学んでいく。また随時業務の見直しを行い、職員の体制、役割を検討し意欲をもって、ご利用者の支援、業務に当たれるようにする。
 - (2) 就労継続支援A型事業所としての実績
ご利用者の作業能力の向上の他、一般就労に必要な常識（身だしなみやルール）の習得や経験を増やすことを目的とした作業実習を進めていきたい。また今年度最低1名の一般就労を目標とし、就職されている方へのフォローアップ（定着支援）も6ヶ月経っても継続的に行い、長く働き続けられるように支援していきたい。
 - (3) 新しい業務の習得
事業の委託元である島田市環境課との情報の共有を密にし、今以上により良い関係を築いていく。今年度10月から新しい業務が追加される。ご利用者が安全に作業に従事できるように検討していく。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
牧ノ原やまばと学園の「サービス提供指針」に基づいた、利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努める。
- 4 「法人の当年度重点計画」
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応じる支援をする
 - (2) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場を作る
 - (3) 有事に機能する防災体制を築く
 - (4) 地域のニーズを把握し、取り組むべきことに着手する

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
15	13	77.5	15	247	12	80.0

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	2	2	0	8
常勤換算	0.1	0.9	1.1	2.0	0.6	0	4.7

- 3 残業と、有給休暇取得に関する計画
日々の業務での残業はなくし、基本的に定時で退勤することを目標とする。
有給休暇取得については、いつだれが休んでもよい体制作りに努める。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容

毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告、各種委員会報告等
毎月	ケース会議	全員	利用者ケース報告、検討。障害特性学習
随時	法人各委員会	担当者	報告、課題の検討
随時	法人未来検討会議	担当者	中・長期計画内容の実施、検討
随時	しごと部会	担当者	島田市就労継続支援について課題検討
随時	志太榛原地区 就労部会	正規職員	圏域の就労支援事業の課題、研修
2回/年	虐待防止委員会	全員	セルフチェック、情報共有、研修
2回/年	感染症対策委員会	全員	情報共有、研修、備品等チェック

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

就労継続支援A型事業について下記の目的に沿って行う。

- (1) 知的・精神的・身体的障害のある人に対し、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。
- (2) 雇用契約に基づく就労が可能と見込まれる者であって、一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施する。一般就労を本人が希望し、可能な方には、求職活動の支援、職場実習の実施や職場定着の為の支援を行う。
- (3) 島田市から「資源類中間処理業務」の委託を受け、リサイクル資源の選別等を行う。
- (4) 通常の作業業務以外にも経験やご利用者の自信につながるような作業体験を実施したい。(法人内のB型事業所の作業体験など)
- (5) 業務に支障のない範囲で励みとなるような季節の行事や活動の場を提供したい。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承 支援の統一	全員	・サービス提供指針を読み合わせる。 ・聖句・メッセージの周知

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

職員がコミュニケーションを取り、職員同士が尊重しあえる組織体制を創る。

- 3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	随時	支援、障害特性研修	全員	2回/年	虐待・身体拘束等	全員
	2回/年	感染症について	全員			3
法人研修	随時	管理者研修	1	随時	主任者研修	1
作業関係	随時	ホークリフト技能	1	随時	ショベルローダー技能	1
支援関係	随時	就労支援研修	3	随時	虐待研修（外部）	2
事務関係	随時	(福)事務・会計	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
12月	ニコニコクリーン大作戦	事業所全員

「カサブランカ掲示板」を有効に活用し。地域の方々と情報を共有し良好な信頼関係をつくっていききたい。また、当事業は島田市からの委託事業であるため、委託者である島田市環境課との連携を密にし、情報の共有を図り地域貢献の事業として利用者が胸を張って作業に取り組めるように意識づけできたらと考えます。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

「カサブランカ便り」を毎月発行し、ご家庭へ情報提供するとともに、モニタリング時には必要に応じてそれぞれのご利用者の家庭や生活の様子について情報を共有する。

G 苦情について対策

前年度苦情件数 0 件 *1 月末現在

苦情があった場合は、「苦情解決マニュアル」に沿って迅速かつ適切に対応するとともに、苦情に対しては、市町が行う調査に協力し改善に努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：0 件（前年度）指に怪我、鍵紛失、車両事故*1 月末現在
- 2 ヒヤリハット：2 件（前年度）、指傷、利用者同士ケンカ*1 月末現在
事故、ヒヤリハットの事案があった場合は、速やかに報告書を作成し、職員全体で情報を共有し再発防止に努める。必要に応じて利用者にも報告し重大な事故、怪我につながるよう に事業所全体で取り組んでいく。
- 3 虐待：0 件（前年度）*1 月末現在
自立度が高く身体的な虐待等の事例は無いが、精神的な面や差別、無視などの接し方にならないように努めます。虐待、身体拘束と思われる事案があった場合は、関係法令及び法人が定める「虐待防止・対応マニュアル」に基づき、迅速かつ適切に対応する。日頃から意識を高め虐待防止に努める。2 回/年虐待防止委員会を開催、セルフチェックを行う。
- 4 身体拘束：0 件（前年度）*1 月末現在

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時事業継続計画書（BCP）」「消防計画書」に基づき対応し、毎月の防災訓練、年 1 回の総合防災訓練及び備蓄品の点検を実施する。
- 2 通勤手段として自転車、自動車のご利用者がある為、日頃から交通安全に対する意識付けを行う。交通安全教室を開催するなど道路交通法を守り安全に通勤できるよう努める。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

- 1 島田市から借用している設備であるが、利用者がその能力を発揮し作業が円滑にできるように作業場の整備環境改善を進めていきたい。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
利用率を上げて、収入を安定的にする。
- 2 借入金償還計画
特になし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 福祉体験実習、ボランティアについては積極的に受け入れていく。
- 2 特別支援学校生徒の実習については将来の進路を決める大切な機会と考え、受け入れる。
- 3 利用を希望する一般からの実習生については、一般就職するための訓練の場として積極的に受け入れ、利用に繋げる機会とする。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 感染症が確認された時は「感染症防止対策対応マニュアル」に基づき迅速に対応します。感染症対策として 2 回/年感染症対策委員会を開催し研修等を行っていく。
- 2 昨年度、外の作業場に新しいストックヤードが増設された。それに伴い 10 月から新たに陶磁器類とガラス類の分別の業務が追加される。ご利用者が安全に作業に従事できるように環境課と情報を共有し進めていきたい。

2025（令和7）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンターコスモス

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標
 - ご利用者に寄り添う支援を心がけ、働く生活介護の特色作りに努める。
 - 住み慣れた地域と仲間の中で安心して暮らせるように必要なサービスの提供に努める。
- 2 事業計画
 - (1) 働きやすい環境作り等、仲間と働く楽しさと健康面等生活面のサポートをし、利用率の向上を目指す。
 - (2) SNSの活用により、施設のアピールをし、新規契約者の獲得を目指す。
 - (3) 事業種別変更に伴い、送迎サービスを開始する。サービスを提供する為の体制を整える。
 - (4) 前年度から引き続き、屋根・外壁及びトイレ等水回りの改修工事、支援室間仕切り工事を実施し、安心安全な環境を整える。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 有事に機能する防災体制を築く
 - (2) 自身の成長を実感でき、働きやすくて楽しい、秩序ある職場をつくる。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率見込
20	17 (-3)	73.7	16	253	13.5	68

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	2	3	7	3	0

- 2 職員配置予定 4月からの配置人数（常勤換算）

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	合計
実人数	1	1	7 (兼務1)	1	1	11
常勤換算	1.0	1.0	4.2	0.5	0.1	6.8 (5.8)

- 3 残業と、有給休暇取得に関する計画
 - (1) 業務の都合上、必要な場合は事前に所属長に申し出て指示を得てから行う。
 - (2) 取得義務のある有給休暇については計画的に取得できるようにする。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	利用者ケース検討・ヒヤリ事故報告等
毎月	虐待防止委員会	全員	職員会議内で確認・検討
年3回	法人防災委員会	防火管理者	事業所BCPの検討等
年2回	法人事故防止委員会	施設長	事故・ヒヤリハットの検証

年2回	法人苦情解決委員会	大塚	各事業所からの事例検討
年4回	島田市くらし部会	大塚	市内生活介護事業所との合同研修等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 働くことを通じて喜びや充実感を得られる支援をする。
- 社会資源を利用し、個別体験学習等、施設内外での様々な余暇活動を提供していく。
(個別での対応、またはグループ毎での対応を行う。)
- 個別支援計画に則り、各々の目標に向けた支援を行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
毎月の職員会議にて法人の「サービス提供指針」を読み合わせ、理念に立ち返る。
- 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
職員同士のコミュニケーションを活性化し、風通しの良い職場づくりをする。
コミュニケーション研修、施設イベント、部門内交流の機会。
- 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	虐待防止研修	感染症研修
	サポカレ（障がい特性）	防災研修
法人研修	職員全体研修	管理者研修
	主任等研修	労務研修
施設外研修	リスクマネジメント研修	会計研修
	県社協研修	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
年3回	島田第2地区民児協交流会	利用者、職員、民児協委員
12月	島田高校との交流会	利用者、職員、生徒
適時	法人内外地域交流イベント参加	利用者、職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
年2回	保護者会	職員・保護者
毎月	コスモスだよりを配布し、月予定・行事報告等をお知らせする。	利用者・保護者

G 苦情について対策

前年度苦情件数0件

苦情の申し立てがあった場合は法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（前年度件数は1月末実績）

- 事故：0件
- ヒヤリハット：15件
・リスクマネジメントについては、全職員が常に「危機意識」を持ち業務にあたり、利用者への十分な配慮をする。
- 虐待：0件
・虐待防止・対応マニュアルに従い、セルフチェックを定期的に行い、毎月の職員会議において虐待についての振り返りを行う。
- 身体拘束：3件
・緊急やむを得ない身体拘束を行う必要がある場合は家族に説明し同意書を得る。また、

記録を取る。

- ・身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に検証を行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 「防災マニュアル」「事業継続計画書（BCP）」に則り研修や訓練を行い、災害に備える。
- 2 感染症対策として、感染症委員会の設置及び「対応マニュアル・BCP」に則り研修や訓練を行う。
- 3 原子力災害避難計画の作成と全職員の周知を図る。

J 環境整備に関する計画

- 1 定期的な施設内清掃、及び点検を行い危険個所があった場合は早急に対応する。
前年度から屋根および外壁及びトイレ等水回りの改修工事、相談室整備等を実施。
AEDの設置及び訓練を行う。
- 2 改修工事が5月に完了後、大河原建設㈱に残額 39,380,000 円を支払う。
(総額 44,880,000 円 (税込))

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
種別変更後初年度となり、定員割れの為、新規契約者獲得を目指す。
- 2 借入金償還計画 無し

L 主務官庁との関連

改修工事や種別変更にともない、静岡県や島田市への諸届を行う。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 各種学校の体験学習や福祉体験実習については積極的に受け入れる。
- 2 特別支援学校の実習生については将来の進路を決定する大切な時期という認識の上、受け入れ、指導していく。
- 3 ボランティア等、地域の協力者に支えられていることに感謝し、積極的に受け入れる。

N その他

当年度から、就労継続支援B型から生活介護への事業種別変更を行った。

2025（令和7）年度事業計画

就労継続支援B型
ワークセンターなのはな

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「ひとりひとりの良さを活かし、支え合い、高め合う事業所」
- 2 事業計画
 - (1) 職員会議日・祝日の利用時間を延長し、時代に合わせた事業所を目指します。
 - (2) 各手順書の充実を図り、業務の可視化、利用者の情報の共有と支援の質の向上に努めます。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
職員会議時に理念やサービス提供指針の唱和すること、聖書のメッセージの回覧により、理念に基づいたサービスの提供に努める。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率
30	27	83.0	30	251	25.8	86.0

区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
14	0	3	4	4	1	0

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1(1)	3	8(1)	2(1)	0	13(2)
常勤換算	0.5	0.5	2.2	4.9	0.5	0	8.6 (0.5)

*()は兼務者数。事務員（3時間パート）1名増 ※支援時間増

3 残業・有給休暇取得に関する計画

- (1) 業務のスリム化、整理整頓を徹底し、効率化を図る。
- (2) 業務に優先順位をつけ、時間内に効率よく行えるよう努める。
- (3) 有休取得目標 60%（前年度見込み 50%）取得を促進しリフレッシュ効果を図る。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
毎月	職員会議	行事計画・ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
年4回	感染症対策委員会	事業所内の感染症対策についての協議・教化
年2回	身体拘束適正委員会	指針の整備・研修・現状についての協議
年2回	虐待防止委員会	指針の整備・研修・現状についての協議
年2回	法人防災委員会	事業所BCPの検討
年2回	法人事故防止委員会	法人内事故ヒヤリハット検討会議

年2回	法人苦情解決委員会	法人内苦情対応・検討
毎月	法人研修委員会	新年度研修内容検討
隔月	法人編集委員会	機関紙打ち合わせ
隔月	島田市しごと部会	市内・圏域の就労関係情報共有・研修

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 個別支援計画に基づき、社会生活を営む上で必要な知識・常識・文化等を学ぶ場の提供、又、社会への繋がりを感じられる活動を提供する。
- 2 作業や活動を通し、達成感や喜び、自信に繋げる支援を提供する。
- 3 利用時間延長により、作業や活動の充実を図り、個々に合わせた活動の提供・仲間同士の関係を深める機会を提供する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議で理念の読み合わせを行う

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
自分の成長を実感でき、働きやすくて楽しい、秩序ある職場を作る。
(1) 法人内外の研修の受講により、意識向上と各々の良さを発揮できるチームワークを形成し、人材育成を図る。
(2) 手順書の検討・改善を図り可視化により、良質なサービスの提供と、働きやすい環境作りを行なう。

- 3 研修計画

種別	内容	内容
施設内研修	身体拘束・虐待防止研修	感染症研修・訓練
	サポカレ障害特性	BCP研修・訓練
法人研修	階層別研修	新年度研修
施設外研修	経理講座	救命講習
	労務研修	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

地域のニーズを把握し、取り組むべきことに着手する。

日付	内容	参加者
4月	市内一斉川ざらい	職員5名
毎月	横井町クリーン作戦(ゴミ拾い・清掃作業)	職員・利用者
随時	法人地域貢献事業への参加	希望者
年1~2回	行事への招待	保護者・地域・利用者・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
年1回	保護者会	職員、保護者
毎月	月の予定・行事報告の配布	保護者

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数0件

- 1 苦情申し立てがあった場合は、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って、迅速かつ適切な対応をする。
- 2 地域との良好な関係構築に努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：9件（前年度）

リスクマネジメントについて、全職員が事故防止に向けて取り組み、業務の改善を図る。常に利用者状況を把握し、利用者同士のトラブルや事故を未然に防ぐ対策を講じる。

- 2 ヒヤリハット：4件（前年度）
些細な情報でも効果的に収集し、事故防止に活用する。
- 3 虐待：0件（前年度）
指針やマニュアルに沿って対応し、年2回の法人内・事業所内での虐待防止委員会での検討やセルフチェックの他、人権の尊重や意思決定支援についての研修を行い、職員間で共有する。職員間の風通しの良い関係作りに努める。
- 4 身体拘束：0件（前年度）
指針の整備、マニュアルに沿って対応し、年2回の身体拘束適正化委員会・虐待防止委員会や研修・検討、セルフチェックの機会に身体拘束0を維持する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 有事に機能する防災体制を築く
 - (1) 「各マニュアル」「災害時事業継続計画書（BCP）」「消防計画書」に則り定期的に訓練を行い災害に備える。（臨機応変に行動できるような訓練方法を、防火管理者を中心に行う）罹災時には、災害時事業計画に則り事業を復興する。
 - (2) BCPの研修・訓練を進める中で随時見直し・改善していく。
 - (3) 毎日の自主点検、年1回の防災パトロールにおいて、危険個所をチェックする。
年2回の消防点検を実施する。
 - (4) 年1回、地域防災訓練へ参加する。又、社協の災害時連携強化プロジェクトに参加、協力体制を築き、地域・関係機関と顔が見える関係作りをする。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

- 1 定期的施設内清掃・点検を行い建物の老朽化を早期発見し対応する。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
 - (1) 公用車7人乗りアイス→8人乗り車両へ入替（送迎サービスに対応）
 - (2) AED機器レンタルにて設置
 - (3) 赤外線警備終了・室内外防犯カメラ（レンタル）継続
 - (4) 教育指導費を活用し、能力向上や社会生活に必要な知識、常識、文化を学ぶ機会の提供を充実させる。

2 借入金償還計画（2月末実績）

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2017/5/1	0.5	25年	静岡銀行	78,000,000	24,440,000	53,560,000

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

今の時点では特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 各種学校の体験学習や福祉体験実習については積極的に受け入れる。
- 2 特別支援学校の実習生については、将来の進路決定に大切な期間であるため、積極的に受け入れ、指導・評価する。
実習生：島田市立看護専門学校生10名（前年度11名）清流館高校2名（2名）
各特別支援学校生1名（1名）支援学校生職場体験2名（3名）
- 3 感染症の状況を考慮しながら、ボランティアを受け入れ、障害への理解促進や共に地域で生活するご利用者を知って頂く機会とする。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2025（令和7）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターあさがお

私たちは、牧ノ原やまぼと学園の理念に基づき、次のような計画を立てて事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「利用者にも職員にも働きやすい環境づくり」
- 2 事業計画
 - (1) 利用者、職員共に安心して認め合える環境づくり。
 - (2) 作業効率を高め、職員の負担を軽減し利用者支援をより厚くして行きたい。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 法人のサービス提供指針に基づき、利用者ひとりひとりを軽んじることなく、利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努める。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 有事に機能する防災関連マニュアル等の整備、並びに防災用品を備蓄する。
 - (2) サポカレ・外部研修を利用し専門性を高め、利用者の望む支援に気づける力を養う。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	19	88.7	20	253	17.6	88

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	8 (2)	1		12 (2)
常勤換算	1	1	1	4.4 (1.7)	0.2		7.6 (1.7)

※（ ）内は実人数・常勤換算ともに兼務者の数値。

- 3 残業と、有休休暇取得に関する計画
 - (1) 定時で退勤することを目標に日々の残業を無くす。
 - (2) 有給休暇を取りやすい職場環境に努め、いつだれが休んでも良い体制づくりに努める。
- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
毎月	職員会議	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
定期	法人各種委員会	防災・苦情解決・事故防止・虐待防止、身体拘束廃止 等
隔月	自立支援協議会 部会	地域課題の抽出・啓蒙 等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 日々の作業の中で達成感を感じることができる支援に努める。
- 2 個々の力を信じ、新たな喜びの発見を支援したい。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	サービスの標準化	全員	職員会議でサービス提供指針、記念誌を用い共通目標の認識を持つ。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
 - (1) 懇親会を計画
 - (2) 職員の個性と意見を尊重し、お互いに認め合い、協力し合える環境を作る。

3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	定期的な研修（感染症等）	サポカレ利用
	研修報告による共有	
法人研修	新年度研修	
	主任等研修	
施設外研修	希望・必要に応じて申し込み・参加	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
第2火曜日	偶数月：笑いヨガ 奇数月：体操教室	利用者・職員・地域住民 等
不定期	地域の文化祭への参加	利用者・職員 等

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
年1回	保護者連絡会	職員、保護者
毎月	あさがおカレンダー（月予定）の発行	保護者・利用者

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- 前年度苦情件数0件
苦情があった場合、法人苦情解決委員会が定めるマニュアルに沿って迅速かつ適切に対応する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 事故：5件（前年度1月末実績）
- ヒヤリハット：4件（前年度1月末実績）
※事故・ヒヤリハットの事案があった場合は速やかに報告書を作成・回覧し、職員全員に周知職員会議で対策の評価を行い再発防止に努める
- 虐待：0件（前年度1月末実績）
- 身体拘束：1件（前年度1月末実績・女性職員に掴みかかった為、男性職員2名で手を押さえ制止。職員会議において身体拘束内容について周知・検討した。）
※虐待防止と身体拘束について定期的に研修を行い、支援について職員間の悩みを共有する場とする。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 様々な想定で毎月1回の訓練を実施。
- 防災用品、備蓄品の充実を図る。
- BCPについて見直し、訓練、研修を定期的に行う。
- 絆ネット（緊急メール）への加入。

J 環境整備に関する計画

- 浄化槽点検、管理（委託）
- 未来計画の建物・環境Grの計画に沿って整備する。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 定員に1名空きがある為、新規利用者獲得に努める。
- 借入金はないが、土地賃借料が1,230,600円/年（102,550円/月）の支払いあり。

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 定期的に来て下さる地域のボランティアの方々を大切に、交流の機会を継続する
- 特別支援学校やその他、学生の実習先として積極的に協力する

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

特になし

2025（令和7）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターふれあい

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「～地域とつながり、ともに歩いていく～」
- 2 事業計画
 - (1) ご利用者・職員共に認め合い、心理的安全の中で働ける職場環境を整える。スタッフの情報共有の場を作り、支援の統一、チームとしての意識を高める。
 - (2) 日常業務の中に清掃を組み込み、ご利用者・職員が気持ちよく働ける環境を保つ。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいたサービスの提供を行う。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。
スタッフの育成に際し、個別研修計画を作成。必要な研修を効率的・効果的に行い、専門性を高めて利用者の「求め」に対応する支援力を養う。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く。
有事の際に連携が取れるよう地域とつながりを持ち、顔の見える関係を築く。
職員にBCPを周知、より現実に則した防災体制を整える。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	14	58.5	14	251	11.6	58

※昨年度実績は1月末までを参考 *2025年3月1名減予定（希望の家へ移行）

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	1	1		6
常勤換算	0.5	0.5	1	0.75	0.125		3.75

*施設長・サビ管希望の家と兼務

- 3 残業と、有休休暇取得に関する計画
定型業務での残業はなくし、基本的に定時で退勤することを目標とする。
有給休暇取得は計画的に取得。作業面に関しては各担当の情報を共有し、いつだれが休んでも良い体制づくりに努め、有給休暇を取得しやすい環境を整える。
- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
年2回	法人防災委員会	伊藤	防災情報共有 事業所BCPの検討
年2回	苦情解決委員会	原	苦情の振り返りと改善検討
年2回	事故防止委員会	原	事故ヒヤリハットの振り返りと改善検討
年2回	虐待防止委員会	原	虐待事例報告・ケース検討等
隔月	自立支援協議会	松田	島田市就労継続支援について課題検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう、指導訓練を行い、必要に応じて個別指導していく。

- 2 就労支援については、希望者のために企業との交渉やハロワークへの付き添いに協力するなど、就職活動を支援していく。仕事を体験できる機会にも積極的に参加する。
- 3 相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行っていく。また個人ケースで対応が困難場合は世帯ケースとして捉え、多角的視野や地域を含めた関係機関と連携して支援していく。
- 4 利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
毎月の職員会議の中で法人理念の唱和を行う。定期配信される「理事長の言葉」を回覧、理念に基づいた働きを提唱する。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
『報告、連絡、相談』を日常的に行い、風通しの良いチームを形成する事で、職員全員が働きやすい環境を創る。日常や会議時において、お互いの意見を否定的態度で聞くのではなく、認め合い、合意形成のもと決定していきたい。

3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	会議での研修報告	利用者支援
	虐待防止研修	身体拘束研修
	防災研修	感染症研修
法人研修	法人全体研修	管理者研修
	主任等研修	防災研修
施設外研修	県社会福祉協議会研修	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
10月	自治会防災会議	職員
12月	しまだにここクリーン大作戦（清掃）	職員、利用者
12月	地域防災訓練	職員
3月	地域に感謝の日	職員、利用者
年2回	公共交通ワークショップ	職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
12月	クリスマス会	職員、利用者、保護者
年2回	保護者会	職員、保護者
毎月	お便り発行	保護者

G 苦情について対策

前年度苦情件数0件

苦情があった場合法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：1件（前年度1月末実績）＊トラブル1件
職員会議において、報告書確認及び対応策の評価を実施する。原因追及や環境の改善に努め職員間の情報共有とPDCAを繰り返すことで発生件数減少に取り組む。
- 2 ヒヤリハット：3件（前年度1月末実績）＊躓き2件 怪我未遂1件
職員会議において、報告書確認及び対応策の評価を実施する。「気づき」の視点を職員全員が持ち事故防止に講ずる。
- 3 虐待：0件（前年度1月末実績）

年に1回以上の虐待防止研修を実施し、職員会議において定期的に虐待防止委員会を開催し、普段の支援の見直しや虐待につながる支援などについて話し合いを行う。

- 4 身体拘束件：1件 身体拘束同意書あり
(前年度1月末実績・ご利用者Aさん1名 不穏時施設外へ飛び出し怪我をする恐れがあった為、手や足を抑える対応をした)
当年度身体拘束同意書をいただくご利用者は1名であり、職員会議において身体拘束適正委員会を開催し、身体拘束がなくなるよう、話し合いを行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 場面ごとの対応マニュアルを作成(送迎時等)。送迎ルート上の避難地や危険個所を記したMAPを作り、送迎中の発災にも備える。
- 2 シミュレーション訓練を行い、災害時に必要な行動力・判断力を養う。想定訓練によって必要な備品の見直し、整備する。
- 3 年に1回引き渡し訓練を実施。
- 4 地域との繋がりを深め互助力の強化をしていく。地域防災の日への参加を継続し、地域住民へ事業所やご利用者の存在を浸透。自治会主催の防災会議に参加。

J 環境整備に関する計画

- 1 定期的な全館清掃を行い、建物の老朽化を早期に発見し、対応する。
- 2 緊急時に備え、AEDをレンタルにて設置。
- 3 デスクトップパソコン1台更新。支援記録入力PC、更新から6年経過し作動不良あり。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
前年度1名登録者増、3月GH入居に伴い1名移行。定員割れは継続、立地・地域上ご利用者の新規獲得が難しい為、定員を20名から15名へ変更する事を検討。
- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連(実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など)

今年度中に定員数を20名から15名への変更を検討。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特別支援学校生徒や一般在宅障害者の実習を積極的に受け入れる。
障害者を理解して頂く為に、ボランティアの受け入れを積極的に行う。

N その他(監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと)

特になし

2025（令和7）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンター希望の家

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「ひとりひとりを尊重し、それぞれが楽しく働く環境をつくる」
- 2 事業計画
 - (1) ご利用者・職員共に認め合い、心理的安全の中で働ける職場環境を整える。スタッフの情報共有の場を作り、支援の統一、チームとしての意識を高める。
 - (2) 支援量・作業量に対し、適切な職員配置を取る。作業量や個人負担を見直し、分担化・効率化を進める。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいたサービスの提供を行う。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。
スタッフの育成に際し、個別研修計画を作成。必要な研修を効率的・効果的に行い、専門性を高めて利用者の「求め」に対応する支援力を養う。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く。
地域に開かれた施設を目指し、地域行事に積極的に参加する。有事の際には近隣の福祉施設や公共施設とも連携が取れる関係づくりに努める。
職員にBCPを周知、より現実に則した防災体制を整える。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	18	84.3	20	251	16.8	90

※昨年度実績は1月末までを参考

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4 (1)	3 (1)	1		10 (2)
常勤換算	0.5	0.5	2.75	2.7 (1.0)	0.125		6.575 (1.0)

*施設長・職業指導員、事務員・生活支援員と兼務 *施設長・サビ管ふれあいと兼務

* () 内は兼務者実人数及び、兼務者常勤換算

3 残業と、有給休暇取得に関する計画

定型業務での残業はなくし、基本的に定時で退勤することを目標とする。
有給休暇取得は計画的に取得。作業面に関しては各担当の情報を共有し、いつだれが休んでも良い体制づくりに努め、有給休暇を取得しやすい環境を整える。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
年2回	法人防災委員会	伊藤	防災情報共有 事業所BCPの検討
年2回	苦情解決委員会	原	苦情の振り返りと改善検討
年2回	事故防止委員会	原	事故ヒヤリハットの振り返りと改善検討
年2回	虐待防止委員会	原	虐待事例報告、ケース検討等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう指導訓練を行い、必要に応じて個別指導していく。
- 2 就労支援については、希望者のために企業との交渉やハローワークへの付き添いに協力するなど、就職活動を支援していく。仕事を体験できる機会にも積極的に参加する。
- 3 相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行っていく。
- 4 利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
毎月の職員会議の中で法人理念の唱和を行う。定期配信される「理事長の言葉」を回覧、理念に基づいた働きを提唱する。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
『報告、連絡、相談』を日常的に行い、風通しの良いチームを形成する事で、職員全員が働きやすい環境を創る。日常や会議時において、お互いの意見を否定的態度で聞くのではなく、認め合い、合意形成のもと決定していきたい。

3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	会議での研修報告	利用者支援
	虐待防止研修	身体拘束研修
	防災研修	感染症研修
法人研修	法人全体研修	管理者研修
	主任等研修	防災研修
施設外研修	県社会福祉協議会研修	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
9月	金谷地区社協絆フェスタ maru	職員、利用者
12月	しまだにここにココクリーン大作戦（清掃）	職員、利用者
1月	金谷公民館まつり	職員、利用者

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
12月	クリスマス会	職員、利用者、保護者
年1回	保護者会	職員、保護者
毎月	お便り発行	保護者

G 苦情について対策

前年度苦情件数0件

苦情があった場合法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：5件（前年度1月末実績）＊トラブル3件 転倒2件
職員会議において、報告書確認及び対応策の評価を実施する。ほとんどの事故がご利用者トラブルによる他害行為であり、原因追及や環境の改善に努め職員間の情報共有とPDCAを繰り返すことで発生件数減少に取り組む。
- 2 ヒヤリハット：5件（前年度1月末実績）＊服薬関係3件 戻もち1件 他1件
職員会議において、報告書確認及び対応策の評価を実施する。「気づき」の視点を職員全員が持ち事故防止に講ずる。

- 3 虐待：0件（前年度1月末実績）
年に1回以上の虐待防止研修を実施。職員会議において定期的に虐待防止委員会を開催し、普段の支援の見直しや虐待につながる支援などについて話し合いを行う。
- 4 身体拘束件：2件身体拘束同意書あり
（前年度1月末実績・ご利用者Aさん2件 健康診断採血・インフルエンザ予防接種時腕を抑える、視線を外すといった対応を取った。健康診断時にご家族の同伴あり。）
当年度身体拘束同意書をいただくご利用者は1名であり、職員会議において身体拘束適正委員会を開催し、身体拘束がなくなるよう、話し合いを行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 場面ごとの対応マニュアルを作成（送迎時等）。送迎ルート上の避難地や危険箇所を記したMAPを作り、送迎中の発災にも備える。
- 2 シミュレーション訓練を行い、災害時に必要な行動力・判断力を養う。想定訓練によって必要な備品の見直し、整備する。
- 3 年に1回引き渡し訓練を実施。
- 4 災害時迅速かつ的確な対応を取る為、地震や風水害対応表を配布。ご家庭・グループホームと意識共有や共通理解を持つ。

J 環境整備に関する計画

- 1 定期的な全館清掃を行い、建物の老朽化を早期に発見し、対応する。
- 2 送迎サービス利用者の増加が見込まれる。状況に応じて送迎車1台追加を検討。
- 3 ガレージ屋根修理

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
登録者数21名、内2名は週2.3利用であり高齢者も多い為変動の可能性は高い。
引き続き利用実習生を受け入れ、利用者獲得に努める。
- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特に無し。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特別支援学校生徒や一般在宅障害者の実習を積極的に受け入れる。
障害者を理解して頂く為に、ボランティアの受け入れを積極的に行う。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと）

特になし

2025（令和7）年度 事業計画

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターやまばと

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025 年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標

『ご利用者ひとりひとりを大切に、希望する生活が送れるよう支援する』

2 事業計画

- (1) ご利用者の情報の共有、支援方法の標準化を図る
 - ①就労への支援ニーズを知り、支援方法の標準化を図る。
 - ②ご利用者ひとりひとりの特性の理解を深め、特性に合わせた作業内容、作業方法の検討をする。
 - ③記録、日々のカンファレンス、職員会議等により情報を共有する。
 - ④暮らしを支えるサービス提供者との連携を促進する。
- (2) 業務手順書の見直しと改定、作成
 - ①業務手順書の整理と改定、作成を計画的に実施する。

3 「理念に基づくサービス提供」に牽連した計画

牧ノ原やまばと学園の理念、サービス提供指針、並びに法令に則り、ご利用者ひとりひとりをかけがえのない大切な人として重んじ、ご利用者の立場に立った個別のサービスを提供するよう努める。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員の専門性向上と精神的成長への配慮
 - ①権利擁護、意思決定支援等、外部研修や動画視聴研修を活用し、専門的知識の向上を目指す。
 - ②福祉実習やボランティアの受け入れを積極的に行う。
- (2) 地域とつながる
 - ①牧之原市、圏域のイベントへの積極的な参加に努める。
 - ②地域の社会資源活用に努め、市町村、支援学校、障害福祉サービス事業所との連携を図る。
 - ③継続して坂部サロンの送迎に取り組む。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	19	84.5%	19	252日	18.5人	92.5%

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1 (1)	2	3	1	0	7 (1)
常勤換算	0.5	0.5	2	2.75	1	0	6.75

※ () は兼務者数

3 残業有給休暇取得に関する計画

- (1) 残業について
時間外勤務を極力行わず、仕事と生活の調和をとる。
- (2) 有休休暇取得について
年間5日の取得義務で有休を消化する。他の有休取得は随時希望有休がとれるよう取得率を確認しながら行っていく。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	管理者会報告、各委員会報告、前月の振り返り（自主製品、受託作業等）、ケース検討 等
年2回	法人防災会議	高橋	防災研修、全体防災訓練の計画等
年2回	法人虐待防止委員会	畠	各事業所での虐待防止対策の共有
年2回	法人苦情解決委員会	畠	各事業所の苦情に関する検討
年2回	法人事故防止委員会	畠	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
年2回	施設内虐待防止委員会	全員	虐待防止等の権利擁護研修
年3回	施設内感染症委員会	全員	感染症対策、BCP 確認、感染症研修
年3回	施設内防災委員会	全員	防災訓練振り返り、BCP 確認、備蓄品確認
隔月	牧之原市しごと部会	畠	一般就労や施設外就労等の現状報告、検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 ひとりひとりに合った作業を提供することで、必要とされる喜びや自信につなげる。
- 2 施設内行事として、レクリエーションや社会参加の機会を提供する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝	理念の継承	全員	理念、ビジョン、わたしたちの願いの読み合わせ
毎月	ケース会議	全員	利用者支援について、現状や対応方法等の情報交換と共有

- 2 楽しい職場作り、チームワーク形成のための計画

- (1) 風通しの良い職場を目指し、報告・連絡・相談を日常的に行う。
- (2) 職員会議時等、親睦の機会をつくる。意見・提案、自由な発言の促進を図る。

- 3 研修計画

種別	内容	内容
施設内研修	権利擁護・虐待防止・身体拘束	防災研修
	サポカレ障害特性の理解	感染症研修
法人研修	全体研修	階層別研修
施設外研修	経理講座	感染管理

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
7回/年	ドリームまきのはら自主製品販売	職員2名、利用者2名
3・7・9月	泰善寺での自主製品販売	職員2名、利用者2名
11月	特別支援学校行事参加（もえぎ祭り）	職員2名、利用者3名
2月	坂部地区さくらまつり	職員2名、利用者2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
6 月	保護者会（ 1～2 回/年）	職員、保護者
12 回	月刊 やまばとだより	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること） ※前年度件数は 2 月末実績

前年度苦情件数 0 件

苦情申し立てがあった場合には、法人の定める「苦情解決規定」に則り、苦情解決責任者を中心に、迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策 ※前年度件数は 2 月末実績

(1) 事故：10 件

職員の業務手順が不明瞭なことが要因の事故が 6 件であった。業務手順書の整備を行い、リスクマネジメントに取り組む。

(2) ヒヤリ：7 件

作業棟内での転倒を伴わないご利用者同士の接触が 4 件であった。検査に出す際の順路を定め、事故に繋がらないよう取り組んだ。今後、作業席の配置変更を検討する。

(3) 虐待：0 件

虐待防止委員会（年 2 回）虐待防止研修を実施し引き続き、ご利用者の権利擁護について学ぶ機会を持つ。

(4) 身体拘束：0 件

虐待防止委員会（年 2 回）虐待防止研修を実施し引き続き、ご利用者の権利擁護について学ぶ機会を持つ。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 防災訓練は 3 回の実施となった。内 1 回は、引き渡し訓練の前段にあたる保護者への電話訓練を実施。今年度、引き渡し訓練を予定する。
- 2 防災マニュアル・ハザードマップ・BCP の見直しと改善を行う。備蓄品の確認を年 2 回行う。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

浄化槽（法定検査年 1 回、合併浄化槽清掃 1 回 保守点検年 4 回）

害虫駆除（月 1 回）消火設備点検（年 2 回）冷暖房装置点検（年 3 回）

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画

(1) 20 名定員の所、現在 18 名（1 名：2 日/週）。実質 17 名の利用の為、サービス費は 3 名分少ない。ご利用者の獲得を積極的に進める必要がある。

(2) 就労の収入である下請作業が、主な収入源となっている CD 解体は製品数が減っているため、全体として収入減の傾向にある。工賃の維持や向上を目指しているため、下請作業の幅を広げたい。また、施設外就労を検討していきたい。

(3) 自主製品のパンや焼き菓子は、材料費・光熱費等が高騰しているため、価格の改定を実施した。今年度は、自主製品の品質の向上、新商品開発に取り組む。

2 借入金返済計画

特になし。

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 ボランティアや見学者の受け入れを積極的に行っていく。
- 2 吉田特別支援学校の実習受け入れは将来の進路を決定する可能性があり、交流における大切な機関であるという認識を持ち、積極的に行っていく。また、牧之原市インターンシップ受け入れ事業は現時点では未定だが、積極的に受け入れていく。

N その他

- 1 感染症に対する対応：感染症 BCP の点検及び演習・研修を進める。

2025（令和7）年度事業計画

就労支援継続B型事業所
ワークセンターさくら

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標
『働く仲間を大切に、皆で前進していく』
- 2 事業計画
 - (1) 支援体制の充実を図る
作業の幅を広げていくために、工程の細分化や治具の工夫を重ねる。
各人の作業アセスメントを基にケース会等で個別に目標を定める。
 - (2) 生産性向上のための取組
職場環境の整備・業務の効率化・業務プロセスの見直し・個人のスキルアップ
少人数であっても成長する職場になる。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする。
法人のサービス提供指針を学び、ご利用者一人ひとりをかけがえのない存在として支えていく。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 自分の成長を実感でき、働きやすくて楽しい、秩序ある職場をつくる
研修の充実・資格取得等、個人の成長のための応援に加え、有休休暇取得のしやすさ等プライベートの充実への応援もしていく。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く
法人未来計画に則り進めていく。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	14	65.5	17	251	15	75.0

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活 支援員	職業 指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2 (1)	4 (1)	1	0	9 (2)
常勤換算	1.0	1.0	1.5 (0.5)	3.4 (1.0)	0.2	0	7.1 (1.5)

※ ()内は兼務者実人数及び兼務者常勤換算

- 3 残業有給休暇取得に関する計画
 - (1) 時間外勤務（残業）について
業務の都合上、必要な場合は事前に所属長に申し出て指示を得てから行う。
業務に優先順位をつけ、時間内に終わるように効率よく仕事をする。
 - (2) 有給休暇取得について
法人の一般事業主行動計画に則り、消化率70%以上を目指す。
取得の促進により、心身のリフレッシュ及び育児や介護等に家族と協力して取り組めるよう配慮する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	管理者会報告、前月の振り返り（利用者・作業等）行事計画 等
毎月	利用者ケース会議	全員	ケース検討、個別支援計画進捗状況等把握
毎月	防災会議	大須賀	防災訓練実施報告、改善検討、次回計画 等
毎月	あつまりーナ全体会議	正職・嘱託	各事業所の報告（利用者・事故ヒヤリ・虐待・身体拘束・防災・感染）事務連絡
毎月	あ）感染症委員会	植野	感染症情報の収集と伝達、備蓄品等の確認
年2回	法人苦情解決委員会	植野	各事業所の苦情に関する検証
年2回	法人事故防止委員会	大須賀	各事業所の事故・ヒヤリに関する検証
年2回	法人防災会議	大須賀・河本	防災研修、全体防災訓練の計画等
年2回	法人全体虐待防止委員会	河本	事例検討、評価・検証、取組報告
適時	法人防災委員会	河本	法人防災会議の内容検討、防災研修の開催
適時	法人未来検討会	河本	建物・環境についての計画を遂行
年2回	吉田町福祉推進委員会	河本	町障害福祉計画進捗状況確認等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 明るい職場づくり
気持ちの良い挨拶、社会人としてのマナーを学ぶ、昼休みの余暇の過ごし方の工夫
- 2 施設内外行事や地域とのふれあい行事への参加を通して社会の一員としての自覚に繋げる（季節行事・ふれあい広場 等）

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
毎月の職員会議にて「サービス提供指針」を読み合わせ、理念に立ち返る。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
働きやすい職場環境を整える。
(快適な空間・職員同士のコミュニケーション・秩序ある職場・正当な評価)

3 研修計画

種別	内容		内容
施設内	感染症研修	義務	虐待研修（身体拘束含む） 義務
	感染症BCP訓練	7/4 義務	利用者理解（サポカレ）
	災害時BCP訓練	7/4 義務	個別支援計画
法人研修	法人全体研修	管理者研修	事例検討会
	法律研修	労務研修	主任等研修
施設外	防災研修（BCP含）		マナー研修
	感染症対策研修		会計研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
4月	側溝の掃除	職員・利用者
10月	ふれあい広場	職員・利用者
12月	あつまりーナクリスマス会	職員・利用者・保護者・ボラ

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
毎月	次月の予定表を配布	保護者
年1回	保護者会	職員・保護者
年数回	あつまりーナ行事への招待	保護者・地域の方

- G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）** ※前年度件数は2月末実績
前年度苦情件数0件
※苦情申し立てがあった場合には、法人の定める「苦情解決規程」則り、苦情解決責任者を中心に、迅速かつ適切な対応をする。
- H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策** ※件数は前年度2月末実績
- 1 事故：3件（前年度）・・・備品破壊・職員を蹴る・他利用者を蹴る
 - （1）ご利用者の思いを受け止め、相談しやすい環境を整える。
 - （2）職員会議及びあつまりーナ全体会で共有し、見守り体制を強化する。
 - 2 ヒヤリハット：3件（前年度）・・・他利用者への攻撃行為
 - （1）ご利用者の思いを受け止め、相談しやすい環境を整える。
 - 3 虐待：0件（前年度）
 - （1）施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。
 - （2）虐待防止のための対策を検討する虐待防止委員会を定期的に開催する。
 - （3）「虐待防止・職員セルフチェックリスト」を使用し、月1回振り返りの機会を持つ。
 - 4 身体拘束：0件（前年度）・・・該当者なし
 - （1）施設が定める「身体拘束・対応マニュアル」に則り対応する。
 - （2）身体拘束等の適正化を図るため、身体拘束適正化委員会を定期的に開催する。
- I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など**
- 1 「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時業務継続計画書（BCP）」「消防計画書」に則り研修及び訓練を行い災害に備える。各マニュアルの定期的更新、備蓄品の確認等、防災担当者を中心に進めて行く。
 - 2 毎日の防災自主点検及び、定期点検（1・3・6ヶ月毎）時に器具及び避難経路の点検を行い、危険個所の有無をチェックする。
 - 3 感染症対策として、感染症委員会を定期的に開催し、マニュアル（BCP含）の再検討、及び、研修・訓練を実施する。
 - 4 原子力災害避難計画については、吉田町のガイドラインを参考にして見直しを行う。
- J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）**
浄化槽（年4回の保守点検、年1回の法定点検及び清掃）、植木剪定及び芝刈（年間随時）害虫駆除（月1回）、消火設備点検（年2回）、館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）、施設警備（通年）。
法人未来計画に則り、建物の自主点検（年2回）を行う。
- K 収支、並びに、借入金返済計画**
- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
吉田特別支援学校卒業生が2名利用開始となる。引き続き「魅力ある施設」になるよう努力しご利用者獲得に努めたい。支出を精査し経費の削減に努め、吉田町の指定管理事業者として運営の安定を図りたい。
 - 2 借入金償還計画 なし
- L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）**
7月、吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告・決算及び今年度の事業計画・予算について説明を行う。
- M 実習生やボランティアに関する見込みや計画**
- 1 実習生については、近隣高校福祉科より実習依頼がある。
 - 2 ボランティアについては、障害への理解促進のため、積極的に受け入れる。
- N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）**
- 1 送迎時の降車確認は「あつまりーナ外出車両安全マニュアル」に則り確認を徹底する。

2025（令和7）年度事業計画

生活介護
ケアセンターマーガレット

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標

『ご利用者の強みを活かし、個性を伸ばす支援を心掛けます。』
ケース会議等で、個々の強みや出来る事を見つけ出し、活動等で活かせるような支援を目指す。また、研修等を積極的に実施し、職員のスキルアップに努める。
- 2 事業計画
 - (1) 支援プログラムの充実を図る
 - ・日中活動（創作・習字・音楽・お楽しみ外出等）の充実を図りながら、新しい活動内容を検討し、達成感や喜びを感じる活動に取り組む。
 - (2) 防災・災害対策等の整備
 - ・リアルを追求した避難訓練の実施。また、防災委員会で出された課題等を全体で共有し、PDCAを意識しながらブラッシュアップしていく。（防災計画・BCPに反映）
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) ご利用者を大切にする
 - ・ケース会議で、ご利用者の強みを伸ばす様な発言に努める。また、会議等にて、ご利用者の尊厳や喜びや楽しさを再認識するように法人のサービス提供指針等を唱和する。
 - (2) 職員を大切にする
 - ・会議等で心理的安全性の確保を意識しながら、一人一答を心掛ける。また個人の学びを尊重し、サポカレや外部研修を積極的に受けられるような職員配置に努める。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 自分の成長を実感でき、働きやすくて楽しい、秩序ある職場を作る
 - ・研修の年間計画の充実を図るとともに、職員自ら学びたい研修を年1回は実施。また会議等においての心理的安全性の確保や、働きやすい職場を作る様に心掛ける。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く
 - ・防災における事業継続計画(BCP)の見直し、また原子力災害避難計画の見直しを行う。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※1月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度末の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	18名	85.3%	19名	251日	18名	90%

- 2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3	8	5	3	19

- 3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	合計
実人数	1	1	8 (1)	1	1	12
常勤換算	0.1	1	6 (0.9)	0.2	0.1	6.4

※（）内は兼務者実人数及び兼務者常勤換算

- 4 残業と、有給休暇取得に関する計画

- (1) 時間外勤務（残業）について

時間外勤務を極力少なくし、ワークライフバランスを保つことで、仕事に対するモチベーションを高める様に努める。
- (2) 有給休暇取得について

消化率70%以上を目指し、「おつかれさま」の精神で、取得できる職場環境を目指す。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ケース会報告・ヒヤリ事故報告等
毎月	ケース会議	全員	利用者ケース確認事項・検討事項
毎月	防災会議	大池	防災訓練の実施報告と振り返り
毎月	あつまりーナ全体会議	正職員	事業所報告（利用者・事故等・虐待・防災）事務連絡
隔月	あ)感染対策委員会	杉本	感染症情報の収集と伝達、薬品等の確認
毎月	生活ケア部会	田澤	各事業所の近況報告と課題検討
毎月	施設管理者会	田澤	理事長・事務局・各委員・その他報告等
年2回	法人防災委員会	大須賀(さ)	事業所BCPの検討・全体防災訓練の計画等
年2回	法人苦情解決委員会	田澤	各事業所の苦情に関する検討
年2回	法人事故防止委員会	田澤	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 本人の強みを活かした活動等の提供
ご利用者自身の強みを見出し、見合った内容を提供する事でご本人の自信に繋げる。また、行事や活動等を企画し、年度を通して良い経験が出来る様に検討し実施する。
- 2 家庭でなかなかできない体験を経験にしていく。
(1) エンジョイプラン：年1回、一日外出で心身のリフレッシュを図る。
(2) 日帰り旅行：年1回、貸し切りバスで県外等に行き、色々な事を体験する。
(3) 買い物体験：年1回、ご本人が望む事を担当職員が提供する。
(4) お楽しみ外出：月1回、公園等に外出し好きな飲み物を購入する体験を行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	サービス提供指針	全職員	職員会議にて読み合わせと共通目標の理解

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
(1) 施設内でコミュニケーション等の研修を実施し、研修の内容やグループワーク等を通して、チームワーク形成に努める。
(2) 福利厚生を活用し、労をねぎらう会の開催を予定する。

3 研修計画

種別	内容	内容
施設内	感染症研修	BCP研修(7月)
	虐待研修	コミュニケーション研修等
法人	新年度研修	主任等研修
	管理者研修	一般職員階層別研修
施設外	防災研修	感染症対策研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
10月	ふれあい広場	地域・利用者・職員・家族
12月	あつまりーナ合同クリスマス会招待	利用者・職員・家族・ボランティア

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
4月	保護者会	家族(後見人)・職員
毎月	マーガレットだより発行	関係機関・家族(後見人)
年数回	あつまりーナ行事への招待	関係機関・家族(後見人)・職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度の苦情は0件だったが、地域から見られているという意識を持ちながら、活動・支援に取り組んでいく。また、苦情が挙げられた場合は、法人の定める「苦情解決規程」に則り、苦情解決責任者を中心に、迅速かつ適切な対応をとる。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策 ※件数は前年度1月末の数

- 1 事故：8件（前年度）…忘薬2件、転倒1件、他害5件。
行政報告ありの事故が1件。同じ事故が起きないように、会議等で話し合いながら、職場環境を整えつつ、減少に努めていく。
- 2 ヒヤリハット：5件（前年度）…転倒未遂、接触未遂、外での排泄1件、確認ミス1件。
職員の危機管理能力の向上のために、KYTの研修を実施する。
- 3 虐待：0件（前年度）
虐待はいつでも起こりやすい事を念頭に置き、施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。また、「虐待防止・職員セルフチェックリスト」を使用する。
- 4 身体拘束：336件（前年度）…該当者2名 身体拘束同意書あり、個別支援計画に記載
(1) 車椅子利用で座位が保てない（車椅子のベルト） 194件
(2) ベッドからの転落防止（ベッドの4点柵） 122件
(3) こたわりによる人や物への突進（手や体で止める） 18件
(4) 居室の施錠 2件
(1)～(4)の内容は3要件を満たしています。月に1回のあつまりーナ会議にて、全体で情報を共有し、検討していきながら減少に努めていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時業務継続計画書（BCP）」「消防計画」に則り研修及び訓練を行い災害に備える。各マニュアルの定期的更新、備蓄品の確認等、防災担当者を中心に進めて行く。
- 2 毎日の防災自主点検及び、定期点検（1・3・6ヶ月毎）時に器具及び避難経路の点検を行い、危険個所の有無をチェックする。
- 3 感染症対策として、感染症委員会を定期的に開催し、マニュアル（BCP）の再検討、及び研修・訓練を実施する。
- 4 原子力災害避難計画の見直しを行う。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽（年4回の保守点検、年1回の法定点検及び清掃）、植木剪定及び芝刈（年間随時）害虫駆除（月1回）、消火設備点検（年2回）、館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）、施設警備（通年）
法人未来計画に則り、建物の自主点検（年2回）を行う。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
コロナ、インフルエンザによる休業や利用者2名減がサービス活動収益（利用者2名減）の減少、人件費によるサービス活動費用の増加が大きな負担になっている。本年度は職員の人数が1名減となり、利用者の契約を1名確保する事で収益を増やすように努めていく。
- 2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

7月、吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告及び今年度の事業計画・予算について説明を行う。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 各種学校の体験学習や福祉体験実習については、前年度と同様に引き続き積極的に受け入れていく。
- 2 ボランティアの受け入れを通し、地域で生活するご利用者を知って頂く機会とする。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 あつまりーナ全体として避難訓練の充実と、吉田町と協力体制の取れたBCPの作成に取り組む。

2025（令和7）年度事業計画

地域活動支援センター
レタスクラブ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
『気軽に立ち寄り、安心できる場所』
- 2 事業計画
(1) ご利用者が安心して利用できる環境を用意する。
(2) 体力維持・人との交流を図る。
(3) 関係機関と連携しながら進めて行く。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
法人のサービス提供指針を学び、ご利用者をかけがえのない存在として寄り添う。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
(1) 自分の成長を実感でき、働きやすくて楽しい、秩序ある職場をつくる。
法人研修、サポーターズカレッジの活用等、一人一人のスキルアップを目指すと共に、チーム全体のレベルアップを図る。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 ※2月末実績で次年度を見込む

定員	昨年度の 契約者数	開所日数	一日平均	利用率
—	15	241	4	28

- 2 職員配置予定

	施設長	生活 支援員	事務員	その他	合計
実人数	1 (1)	2	1 (1)	0	4 (2)
常勤換算	1.0 (1.0)	0.9	0.1 (0.1)	0	2.0 (1.1)

※ () 内は兼務者実人数及び兼務者常勤換算数

- 3 残業と有給休暇取得に関する計画
(1) 時間外勤務（残業）について
業務の都合上必要な場合は、事前に施設長に申し出て指示を得てから行う。
業務に優先順位をつけ、時間内に終わるように効率よく仕事をする。
(2) 有給休暇取得について
法人の一般事業主行動計画に則り、消化70%以上を目指す。
取得の促進により、心身のリフレッシュ及び育児や介護等に家族と協力して取り組めるよう配慮する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	職員会議	全員	管理者会報告、前月の振返り（利用者・作業等） 行事計画 等
毎月	あつまりーナ全体 会議	河本	各事業所の報告（利用者・事故ヒヤリ・虐待・ 身体拘束・防災・感染）事務連絡
毎月	あ) 感染症委員会	河本	感染症情報の収集と伝達、備蓄品等の確認
年 2 回	法人苦情解決委員会	河本	各事業所の苦情に関する検討
年 2 回	法人事故防止委員会	河本	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
年 2 回	法人防災会議	大須賀	防災研修、全体防災訓練の計画等
適時	法人防災委員会	河本	法人防災会議の内容検討、法人 BCP 作成
年 2 回	吉田町福祉推進委員会	河本	町障害福祉計画、地域生活支援拠点説明

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 創造的活動（活動を通して心身の安定を図ることを目的とする）
- 2 グループワーク（障害や病気について、人との関わり方、日常の過ごし方）
- 3 その他、月毎の日課（ランチ作り、海岸清掃、農作業等）を共に行い、親睦を深める）

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 農作業での収穫物を使ってランチ作りをする。
- (2) 働きやすい職場環境を整える。
(快適な空間、職員同士のコミュニケーション、正当な評価)

- 3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内	感染症研修	障害特性研修（主にサポカレ）
	虐待研修（身体拘束含む）	防災研修
法人研修	法人全体研修	管理者研修
施設外	防災研修	事故防止研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
不定期	湯日川土手ゴミ拾い	利用者・職員
不定期	住吉海岸清掃	利用者・職員
10 月	ふれあい広場参加	利用者・職員
毎月	レタス便り配布（公共機関・病院等）	利用者・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	対象者
毎月	レタス便り配布	利用者・家族

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること） ※前年度件数は2月末実績
前年度、苦情は無かったが、申し立てがあった場合には、法人の定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策 ※前年度件数は2月末実績

- 1 事故：0件（前年度）
 - (1) ご利用者各々の思いを受け止め、互いの関係づくりを支援する。
 - (2) 職員会議及びあつまリーナ全体会で共有し、見守り体制を強化する。
- 2 ヒヤリハット：0件（前年度）
 - (1) 個々のケース記録の中での「気づき」をまとめ、職員会議等で共有する。
- 3 虐待：0件（前年度）
 - (1) 施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。
「虐待防止・職員セルフチェックリスト」を使用し、月1回振り返りの機会を持つ。
- 4 身体拘束：0件（前年度）・・該当者なし
 - (1) 施設が定める「身体拘束・対応マニュアル」に則り対応する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時事業継続計画書（BCP）」「消防計画書」に則り訓練を行い災害に備える。各マニュアルの定期的更新、備蓄品の確認等、防災担当者を中心に進めて行く。
- 2 毎日の防災自主点検及び、定期点検（1・3・6ヶ月毎）時に器具及び避難経路の点検を行い、危険個所の有無をチェックする。
- 3 感染症対策として、感染症委員会を定期的に開催し、マニュアル（BCP含）の再検討、及び、館内研修を計画・実行する。
- 4 原子力災害避難計画については吉田町のガイドラインを参考にして見直しをする。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽（年4回の保守点検、年1回の法定点検及び清掃）、植木剪定及び芝刈（年間随時）害虫駆除（月1回）、消火設備点検（年2回）、館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）、施設警備（通年）、法人未来計画に則り、建物の自主点検（年2回）を行う。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
委託費収入で賄えるように経費の削減を図る。
- 2 借入金償還計画
借入金はなし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

7月、吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告及び今年度の事業計画・予算について説明を行う。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生については、近隣高校福祉科より実習依頼がある。
- 2 ボランティアについては、障害への理解促進のため、積極的に受け入れる。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2025（令和7）年度事業計画

相談支援事業
生活支援センターやまばと

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画に立って事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標

次の言葉をキーワードとして相談事業に取り組む。

- ① つながり、みとめあう：ご利用者と私たちが、サービス事業所が、地域がつながり認め合うことが、ご利用者の「幸せ」につながる。
- ② 学び合い、育ちあう Part2：同じ目線で学び合いながら育ち合って、相談員としてのスキルを高めていく。
- ③ 凡事徹底：むずかしいことができても、平凡なことができないということではいけない。平凡で当たり前のことが徹底してできる事業所になる。

2 事業計画

- (1) 職員の育成について：OJT 機能を高めるため取り組みとして、事例検討、伝達研修を行い、外部講師によるOJT等の機会を提供することで、職員を育成する。
- (2) 業務の効率化について：職員人数は前年度に比べて減少するが計画件数は前年同様のため、前例にない業務の効率化が求められている。できることを1つずつ進める。
- (3) 相談支援事業について：委託相談と計画相談の担当を明確に分けた事業を行う。委託相談は、行政と協働しながら相談業務を行う。計画相談は、社会福祉法人牧之原市社会福祉協議会運営の生活支援センターつばさと協働による体制を確保し、利用者中心支援や意思決定支援に基づく相談支援を行う。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

(1) 利用者主体のサービス（相談、計画作成）の提供

利用者の意向を把握し、一人ひとりの人格を尊重し、その特性に合わせた相談やサービス等利用計画を作成する。また、法人理念をふまえて、事業所が大切にしている、あるいは大切にしたいことをカタチにするために事業所理念を作成する。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい、秩序ある職場づくり

職員がこの事業所で働くことで成長し、大切にされていることが実感できる事業所づくりを行う。また、平凡なことが当たり前に行っている職場づくりを行う。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 特定相談支援事業実績件数見込み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画	30	27	21	21	22	32	19	16	20	20	15	20	263
モニタリング	68	74	69	81	71	76	72	91	94	73	86	89	944
計	98	101	90	102	93	108	91	107	114	93	101	109	1,207

2 職員配置予定

	施設長	主任 相談員	相談員				事務員	合計
			委託 専任	計画 選任	他事業所 兼務	非常勤		
実人数	1	1	1	4	1	1	10	
常勤 換算 人数	委託	1.0	1.0				2.0	
	計画			4.0	0.5	0.6	5.1	
	他	0.1					0.4	
							7.5	

- * 専門職：社会福祉士 5 名、精神保健福祉士 2 名
- * 主任相談支援専門員研修修了者：2 名、相談支援専門員初任者・実務者研修修了者：8 名
- * 行動障害支援者研修修了者：3 名、要医療児者支援研修修了者：2 名、
精神障害者支援研修修了者：1 名

3 残業と、有給休暇取得に関する計画

(1) 残業について

NO 残業日の定着、生産性の向上、業務の効率化や改善を進めることによって、少なくとも前年度比減少を目標とする。また、偏りをできるだけ少なくしたい。

(2) 有給休暇取得

前年度に引き続き取得率 60% を目標とする。また、4 半期ごとにバランスよく義務化分を取得する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内 容
毎週水曜	センター定例会	ヒヤリ事故報告・事例検討・ケース共有等 内 2 回は生活支援センターつばさと共同開催。
随時	法人内会議	施設管理者会・苦情解決委員会 ヒヤリ事故委員会・防災委員会・労務委員会
随時	志太榛原圏域部会	各種専門部会(相談・重心)
毎月	牧之原市協議会関係	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	島田市協議会関係	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	吉田町相談支援部会	相談支援部会に参加。地域課題等を提起。

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

法人内他事業所と本人中心支援・意思決定支援理解の為の事例検討会企画・運営する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、事業所職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼でやまばと 50 年記念誌の読み合わせ
4、2 月	実践計画書説明・評価	全員	今年度計画書に基づく事業運営状況の説明・進捗状況の確認及び評価
年 4 回	自己評価・施設長面談	全員	目標設定、進捗確認 他
随時	事例検討会(SV)	全員	外部 SV による事例検討会(メンタルヘルス)

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

日々声掛けで新しい意見が通る風通しの良い雰囲気や環境づくりを行う。

お互いストレンクス視点で学び合いねぎらう時や交流会等を年 2 回程度行う。

高齢者部門の相談系事業所（牧之原市地域包括支援センターオリーブ、居宅介護支援事業所シャローム）との交流を持つ。

3 研修計画

種別	内 容	内 容
事業所内	サポカレ障害特性	リーダーシップ 他
法人内	新年度研修	管理者・主任研修
外部	相談支援従事者(初任)	相談支援従事者(現任)
	虐待防止(相談窓口)	県精神障害
	県重症児者医ケア児等 C o	県強度行動障害
	基幹支援センター研修	市町協議会研修 他

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

相談業務を通して、法人重点目標の「地域ニーズを把握し、取り組むべきことに着手する。」に関わりを意識した対応を行う。また、法人の地域貢献交流事業と連携した取り組みを行う。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

相談業務を通して、ご家族に喜ばれる働きを提供する。

G 苦情について対策

苦情受付担当者を中心に対応する。初心を忘れず、万が一苦情を頂いた場合は、迅速かつ真摯に対応する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：これまで、公用車関係の事故が発生してきたことから、事故防止について意識していく
- 2 ヒヤリハット：これまで、確認不足によるヒヤリハットが発生してきたことから、これまでのダブルチェック等再発防止に取り組みを継続していく。
- 3 虐待、身体拘束：虐待・身体拘束等防止対策について、権利擁護の視点を常に持ち、センター内での振り返り、法人内外へ働きかけていく意識を持っていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

防災担当者が中心となり、防災訓練を年2回以上実施する。また、立地上、土砂災害警戒区域にあたるため、有事に機能することを前提とし、年1回以上は拠点事業所と連携の上で訓練を実施する

J 環境整備に関する計画

経年劣化や機器の不具合があれば対応する。記録システムのクラウド化については本部の同行に基づき対応する。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
月遅れ請求はその翌月には確実に解消する。特別な支出がなければ、収支差額のマイナス幅は最小としたい。
- 2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など） 予定なし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生
社会福祉士実習指導者養成研修修了者3名（兼務職員含む）を中心に、社会福祉士実習生を法人内入所事業所と連携し、可能な範囲で受入れる。
- 2 ボランティア
ボランティア希望があった場合は、法人内の他事業所を紹介する。

N その他

業務の効率化を進めるために、更にICTを更に活用し情報の共有、収集を行う。
法人理念をふまえて、事業所が大切にしている、あるいは大切にしたいことをカタチにするために事業所理念を作成する。

2025（令和7）年度事業計画

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
 聖ルカホーム
 短期入所生活介護
 聖ルカショートステイ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をたて事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」
 目標達成のために“伝えあう事・繋がる事”を大切にしていきたい。
- 2 事業計画
 - (1) その人らしい暮らしの実現 ➡ 一人ひとりの生活習慣や個性が尊重された支援をし、生活の質の向上を目指す。
 - (2) 選ばれる施設づくり ➡ 地域の方々から選ばれる施設となるよう魅力ある施設づくりをしていく。そのことにより、稼働率の向上や就職希望者の増加などに繋がり安定した経営を目指す。
 - (3) 職員がいきいきと働く職場づくり ➡ 職員のアイデアや新たな取り組みを応援する。他者を認め、協力しあえるチームとなる。仕事を通じ自己の成長や喜びを感じそれぞれの役割りを、意欲を持って行える職場づくりを目指す。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。
 - (2) 一人ひとりがかけがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の人格を尊重し、その願いに応える支援をする ➡ 利用者や家族から施設への要望等を言える関係づくりと、その思いを大切にケアを行う。
 - (2) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい秩序ある職場をつくる ➡ 職員一人ひとりの研修プログラムにより人材育成を行う。ケア等の取り組みや実践を、発表する機会をつくりモチベーションアップに繋げる。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

事業名	定員	2025年度目標稼働率 (延べ目標利用者数)	2024年度稼働率見込み (延べ利用者数見込み)
聖ルカホーム	70名	98.5% (25,167人)	98.3% (25,117人)
聖ルカショートステイ	10名	79.2% (2,886人)	81.7% (2,983人)

介護度による利用者予想（聖ルカホーム）

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均
人数	0	1	23	23	23	70	4.0

2 職員配置予定

	施設長	相談員 ケアマネジャー	介護員	看護師	管理栄養士	事務員
実人数	1	6	49	5	1	5
常勤換算	0.75	4.74	43.58	4.33	1	2.725
	介護補助員	清掃員	宿直員	医師	合計	
実人数	6	1	3	1	78	
常勤換算	1.94	0.15	1	0.1	60.315	

介護員には、EPA候補生2名、特定技能実習生2名を含む

- 3 残業と、有給休暇取得に関する計画
- (1) 生産性向上による、業務改善を進め残業時間の削減に努める。
 - (2) 有給休暇は計画的に消化できるように努め、取得しやすい職場となるよう啓発と管理をする。
- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定
- 各種委員会や会議は、情報共有の場であるとともに課題解決の場であることを認識し、参加者一人ひとりが積極的に発言できるようにする。他者の意見も尊重し、より良い施設づくりのための意見交換を行う。

開催日	種類	内 容
毎 月	経営会議	施設運営全般、職員教育、全体行事、課題解決 等
毎 月	ケア向上委員会	経営会議の決定事項の周知、ユニットの課題や現状報告、生産性向上への取組み 等
年2回	事故防止検討委員会	事故・ヒヤリの防止に向けた検討
3ヶ月毎	虐待防止対策委員会	虐待防止に関する検討、課題の検討、研修会の企画
3ヶ月毎	身体拘束廃止 適正化委員会	身体拘束ゼロの推進、課題の検討、研修会の企画
3ヶ月毎	感染症等対策委員会	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事
毎 月	衛生委員会	職員の安全衛生、健康管理、ストレスチェック 等
毎 月	職員会議	情報共有・研修 等
毎 月	ユニット会議	利用者の処遇検討、プラン確認、業務改善、研修 等
毎 月	防災・メンテナンス会議	防災訓練等の計画・実施、施設設備、備品、介護用品の整備
3ヶ月毎	優先入所検討会	入所申込者（待機者）の入居順位を検討し決定する
毎 月	介護員ミーティング	業務の確認、業務改善、他部署と調整すべき事、職種の専門性を高める研修 他
毎 月	相談員ミーティング	
毎 月	事務ミーティング	
年4回	食事・栄養検討委員会	食事や栄養についての検討。改善のための対策
毎 月	広報委員会	聖ルカだよりやSNSについて検討実施する
年6回	余暇活動委員会	利用者の余暇活動を検討実施する

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 利用者の願いや希望を叶えるよう、個別に関わる時間を持つていく。
- 2 季節に合わせた食事や設えなど、五感を刺激できる取組みを行う。
- 3 家族と過ごす時間が持てるような工夫をする。
- 4 健康診断結果を精査し、健康状態の維持改善を図る。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針、記念誌、機関紙等を読み合わせる
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
四半期ごと	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を振り返り次に繋げる
適宜	職員面談	全 員	職員の思いを受け止めるとともに、一緒に課題解決に取り組む

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 「働きやすく、働きがいのある職場」となるよう日頃から職員間の意見交換の場を設ける。悩みの共有や課題解決のため、伝えあい理解しあう事を大切にするチームを築いていきたい。

- (2) 部署及びユニット毎に目標をたて、その取組みの成果発表の機会を持つ。
- (3) 職員や職員の家族に感謝を伝える機会をつくる。
- (4) 産業医との連携により、働きやすい職場づくりを考える。

3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	身体拘束適正化	看取りケア
	虐待防止	事故防止
	感染症対策	非常災害時の対応
	認知症	褥瘡予防
	法令順守	ハラスメントの禁止
	プライバシー保護	喀痰吸引
	※その他、オンライン研修を受講予定	
法人研修	新人オリエンテーション	新年度研修
	役職別研修	
施設外研修	ユニットリーダー研修	喀痰吸引研修
	介護福祉士実習指導者講習	認知症介護基礎研修
	褥瘡予防	看取りケア
	認知症	身体拘束廃止
	排泄ケア	コンプライアンス
	薬の知識	リスクマネジメント
	経理財務研修	労務研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
毎 月	サロン送迎	
不定期	わいカフェ	
10月	聖ルカ感謝祭の実施	
年数回	介護講座&相談会	
年数回	防災について町内会との連携	

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
毎 月	聖ルカだよりの発行	
年1回	ご家族アンケートの実施	
年1回	家族との意見交換や勉強会	
適 宜	ご家族との面談開催	

G 苦情について対策

苦情件数0件 (2025年2月末実績)

苦情や要望については真摯に受け止め、迅速に対応していく。また、日ごろから相談しやすい関係づくりに努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

1 事故：145件 (2025年2月末実績)

事故発生の要因分析をし防止のための対策を話し合い、定期的に検証を行う

2 ヒヤリハット：164件 (2025年2月末実績)

大きな事故につながらないために、小さな気付きを大切にする。

3 虐待：0件 (2025年2月末実績)

不適切なケアを含め発生しないように研修等で啓発していくとともに、職員のストレスが過剰にならないようメンタルケアを行っていく。

- 4 身体拘束：0件（2025年2月末実績）
 身体拘束のもたらすリスクを理解し『身体拘束ゼロ』に取り組む。安易に身体拘束をしないようにするとともに、生命を守るための緊急時やむを得ない場合の拘束が適切に判断できるよう職員教育を行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

災害マニュアルやBCPを周知し、有事の際に実践できるようにする。また、毎月の防災訓練もマンネリ化を防ぎ実践に役立つ訓練を実施する。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検清掃、貯水池汚泥処理、空調設備の清掃、施設内清掃、貯水槽清掃、ガス乾燥機点検、厨房機器点検、エレベーター点検修理、自動ドア点検、特定建築物設備点検、防虫（鳥）対策、花壇・樹木整備

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

(1) 聖ルカホーム

収入増のために、引き続き空床期間削減や介護報酬加算をとれるよう要件に合った体制づくりに取り組む。支出削減のため、購入品の検討や使用料の削減に取り組む。

(2) 聖ルカショートステイ

新規利用者の獲得とスケジュール調整が課題である。感染症等の発生によるサービス停止が起こらないよう注力したい。支出については、長期入所との稼働率按分となるため同様である。

2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014/10/7	0.57545	10年	静岡銀行	95,000,000	27,810,300	67,189,700
2014/10/7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	427,500,000	116,606,366	310,893,634

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

今の時点では特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

大学や専門学校、高校からの受入れを積極的に行う。充実した実習となるよう、学校との連携をしていく。実習指導者の育成にも力を入れていきたい。

2 ボランティア

感染症の対策をし、ボランティアの受け入れが出来るよう考えていきたい。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 介護保険法に基づく適正な施設運営を行う
- 2 ICTの活用などにより、職員の職場環境改善を検討していく。
- 3 感染症予防や拡大防止に引き続き取り組む。
- 4 積極的に広報活動を行い、利用者や職員の確保に取り組む。

2025（令和7）年度事業計画

地域密着型介護福祉施設入所者生活介護
特別養護老人ホーム グレイス

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標
 確実な人材確保に努め、利用者の暮らしを守りつつも、経営の生産性向上を模索する。
- 2 事業計画
 - (1) 感染症への知識や情報取得・訓練を継続しながら、新しい生活様式を踏まえた面会・行事開催でご家族・地域との交流を図る。
 - (2) サテライト施設として法人（特に本体特養）・地域・行政との連携強化に努める。
 - (3) 介護スタッフを充足させ職員全体の負担を軽減し、外国人ワーカー・新人や異動職員が安心して働ける職場環境作り（業務手順書作成等）を行い、より良いサービス提供に努める。
 - (4) 丁寧なアセスメント・施設サービス計画の充実と職員間の正確な情報共有を行って事故を防止し、常に利用者・ご家族に安心していただけるよう誠実な対応・説明を行う。
 - (5) 居宅シャローム・デイサービスすずらんと協力、高め合って事業を進めます。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 毎月、法人の理念「共に生きる」について示唆される書物や動画を活用し話し合いの時を持つことで理念の浸透を図る。
- 4 「法人の当年度重点目標」に関連した計画
 - (1) 同性介助を基本とするが、十分に対応できない環境下では、礼儀正しい挨拶や丁寧で的確なケアを提供し信頼を得るように努める。
 - (2) 新人介護職員への計画的な研修の実施・育成。ベテラン職員への資格取得の推奨。
 - (3) 意見の違いを認めつつも、互いに協力し高め合える職員集団。
 - (4) 実際の有事を想定した防災体制の検討。
 - (5) 運営推進会議等に出された地域の要望を前向きに検討し実施に向けて取り組む。また、法人・周辺施設及び地域との防災上の連携協力を深める。
 - (6) ホームページ・インスタグラムの随時更新、お便り等で施設運営の報告・活動内容の発信を行う。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	去年の登録者数	去年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
29	29	10574	10320	365	28.3	97.0

区分による利用者予想

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1	0	5	13	10

2 職員配置予定(4月配置予定)

	施設長	相談員 (ケアマネ)	看護師	介護員	事務員	清掃員 (補助員)	合計
実人数	1	3	3	25	2	1	35
常勤換算	0.5	1.0	1.5	20.54	1.31	0.8	25.65

3 残業と、有給休暇取得に関する計画

- (1) 事務部門は土日をノー残業デーとする。介護現場は補助職員の増員を検討する。
- (2) 増加する年間公休（＋7日）を提供し、かつ有給取得しうる人員確保を行う。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
年2回	法)防災委員会	事業所BCPの検討、本部BCPの理解と連携等
年2回	法)苦情解決委員会	事例報告、苦情の原因究明と再発防止対策、評価
年2回	法)事故防止委員会	事故・ヒヤリ報告、再発防止策の検討
年2回	法)虐待防止委員会	事例報告・対策・虐待の芽を摘むためにGW
月1回	恵の丘職員会議	各事業所・部門の報告、業務改善提案、研修等
年4回	生産性向上委員会	利用者の安全・サービスの質の確保・職員の負担軽減を検討する
年4回	感染等対策委員会	感染・褥瘡予防・吸引等の情報共有・検討
年4回	安全対策委員会	事故・ヒヤリの報告・確認・対策の評価。
年4回	虐待防止対策委員会	不適切ケア、虐待の確認、防止に向けての研修計画
年4回	身体拘束適正化委員会	身体拘束に関すること
年4回	ユニット会議	利用者の処遇検討、業務改善、研修等
年4回	看護ミーティング	業務確認、業務改善、他部署との連携、専門性
年6回	防災メンテ会議	施設設備メンテナンス・防災訓練の計画・実施
年6回	運営推進会議	施設の運営について報告、委員からの意見提案
月1回	経営運営会議	恵の丘の施設全体の運営について検討
月1回	リーダー会議	各ユニットの報告・ケアの検討、リーダーの育成
年3回	優先入所検討会	入所申込者の順位を検討し決定する

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- ご利用者の「希望」「願い」を受け止め、年間の計画を立てて実現する。
- 感染状況を見ながら、家族・地域のボランティア等が参加する行事を開催する。
- 施設にいても在宅の頃のような地元色・季節感を味わえるようなイベント・設えを行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	理念の継承	全員	法人理念に通ずる資料を参考に、意見を述べ合う

- 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

(1) 職場の問題の有無と、その対処について、調査検証する。

- 研修計画

種別	内容	
施設内研修	職員研修：認知症、虐待防止、身体拘束適正化、感染症、褥瘡予防、喀痰吸引	事故防止、初動訓練、法令遵守、プライバシー保護、看取りケア、緊急時対応、口腔ケア
	リーダー研修：リーダーシップ	メンバーシップ
	新人：介護の基礎、身体拘束適正化 特定技能生：外国人向け研修	虐待防止、事業継続計画について
法人研修	新年度研修、主任等研修	事例検討会、新人オリエンテーション
施設外研修	認知症介護基礎研修、	静岡県社協各研修等
	介護福祉士実習指導者研修	喀痰吸引研修
	ユニットリーダー研修	認知症実践者研修（リーダー研修）
	ユニットケア管理者研修	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者/対象
年2回	坂部ふれあいサロン遊ビリテーション	職員2名

年1回	生活困窮者への食糧支援（本部への協力）	全員・ご家族（呼び掛ける）
年1回	地域防災訓練への参加	職員1名
年1回	施設での餅つき大会	地域住民、職員、利用者全員
随時	地域学校等の運動会・祭りへの参加	

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者/対象
毎月	グレイスだよりの発行	全家族へ
年1回	ユニット単位家族会、ご家族向けアンケート	全家族、全職員
年6回	運営推進会議	職員、家族、地域、行政より
年1回	市内地域に向けた施設の紹介と職員募集	市内地域公民館等や回覧板

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情件数0件（前年度2月末までの実績）

苦情は、その内容を傾聴し速やかに発生要因を分析・検討し全職員に対策を周知する。また、日頃から相談しやすい良好な関係作りに努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（前年度2月までの実績）

- 1 事故：48件 データを分析、原因・対応の情報共有、評価の徹底、研修の実施を行う
- 2 ヒヤリ：72件 危険の予測・気づくことを大切に、大きな事故を予防する。
- 3 虐待：0件 不適切ケアには速やかに対処し、研修等で啓発を行いながら、虐待の芽を早期に摘み取る。職員のメンタルケアの実施。
- 4 身体拘束：2件 感染症等緊急やむを得ない場合には適切な判断が出来るよう研修内容を深め、取り組みを常に見直し、考え方の統一を図る。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 本体施設等周辺施設との連携について確認し、互いの施設への連絡訓練等を行う。
- 2 BCPの見直しと不足設備・備蓄品の確保
- 3 災害時の役割分担の確認、災害時実践するケアの確認、災害後の感染症発症対応の確認

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- 1 ユニットエアコンの交換（故障時随時）
- 2 介護ロボット・見守りシステム（3台程度）の導入

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
 - (1) ご利用者の健康管理・病気の早期発見・治療で退居・入院の空床を短期間に抑える。
 - (2) リースの見直し、機材の丁寧な取り扱い、電力の無駄遣いをなくす等の徹底。
 - (3) 感染対策の継続でクラスターを予防し、感染関連の出費を減らす。
- 2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・運営指導の準備をする。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 感染対策を講じながら、ボランティアの受け入れを行う。
- 2 実習指導者の育成を行い、専門学校等の実習生・市のインターンシップ生徒を受入れる。

N その他

・グレイス寮の暮らしが、快適安全でかつ相互協力的な寮生活になるよう本部と連携する。

2025（令和7）年度 事業計画

養護老人ホーム
相寿園

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2025年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
利用者一人ひとりの思いに寄り添い、大切な人として重んじて常に利用者の立場に立ったサービスの提供を行う。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 利用者自身の思いが反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に努める。
 - (2) 個別支援計画（ケアプラン）は、利用者及び家族の意向を尊重した上で策定し、必要に応じて適宜見直すようにする。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画（人材定着・職員育成・地域貢献）
 - (1) 職員が希望を持ち、仲間とともに喜びが分かち合える職場を目指し、支援会議や職員会議等の様々な場で率直かつ真摯な話し合いができるように努める。
 - (2) 職員同士、今まで以上に思いやる気持ちを持ちながら、チームとして支援できるように努める。
 - (3) 研修を多く取り入れて、専門性を高めて支援できるように努めていく。
 - (4) 職員それぞれの仕事量を確認して、時間を工夫して業務時間内で終わるように努める。

B 利用者と職員の状況

1 目標とする利用者

措置入所定員	目標措置者数	ショート利用	契約者数	年延利用者数	月平均	利用率見込み (%)
50	30	3.3			30	60.0
区分なし	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害

2 職員配置予定（ ）は兼務

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	
実人数	1		1	6	3	1	
常勤換算	1		1	3.71	2.5	1	
	栄養士	事務員	夜勤専門員	夜勤補助員	その他		合計
実人数	1	1	4	4			22
常勤換算	1	1	2.02	1.53			14.77

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- (1) 毎週水曜日を「ノー残業デー」として徹底を図る。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月1回	職員会議	全員	高齢者部会・管理者会の報告、理念の学習、ケース検討等
毎月1回	ケアプラン会議	全員	個別支援計画作成、見直し等
毎月1回	支援ミーティング	支援員全員	利用者の情報共有。支援のあり方についての検討。
毎月1回	支援会議	全員	行事計画策定、各部署からの報告及び検討事項の協議等
毎月1回	給食献立会議	栄養士、支援員、相談員、委託業者	食事に関すること全般について協議
年2回	身体拘束廃止委員会	施設長主任他	虐待対応委員会と同時開催（年2回研修実施）
年4回	感染予防対策委員会	施設長主任他	感染症BCP確認・感染症に対する学び(研修2回実施)
年4回	事故防止委員会	施設長主任他	報告書確認・再発防止策を協議(年2回研修実施)

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 花見、節分、納涼祭、秋の外出、クリスマス等々季節に応じた行事を開催する。
- 2 施設周辺の環境整備、花壇の整備、花木の植栽等様々な作業を利用者と相談しながら行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月1回	理念の継承	全員	法人の理念、行動指針、私たちの願い等の読み合わせ (職員会議・支援会議)

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 支援など問題が生じた時は、その都度協議して情報共有していく。
職員それぞれの意見を聞き、否定せず良い支援をしていく。
- (2) 利用者支援に関する悩みなどを、主任・副主任が聞き取り解決に努めていく。
共有が必要な時は、全職員に周知・共有していく。
- (3) 終業時間終了時に、充実した気持ちで終われる環境づくりをしていく。

- 3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	7・1月	虐待・身体拘束研修	全員	9・3月	事故防止対策研修	全員
	6月	感染症予防対策研修	全員			
施設外研修	5月	高齢者感染症講座	1	9月	心の底から信頼される職員になるため	1
	11月	高齢者虐待の予防と対応	1		アンガーマネジメント研修	2
法人研修	6月	新年度研修	5			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
10月	地域の小学校資源回収協力	2
12月	地域防災訓練の集合場所の提供	2

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
毎月1回	「相寿園たより」を発行し家族、関係機関に送付	—
随時	家族の面会、家族との外出	

G 苦情について対策

2024年度は苦情として具体的に上がってくる案件はなかった。
利用者から、不平不満など聞かれることあった。聞き取りながら、対応など会議の場で話し合っていく。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

前年度の状況を参考にして、改善に努めていく・

- 1 事故件数：91件（2024.4.1～2025.2.28）内訳は、転倒82件 薬関係9件
転倒に関しては、転倒骨折で総合病院へ入院ケース2件
利用者のADL低下による転倒ケース多く、防止策が難しいケースが多かった。
2025年1月インフルエンザ感染後のADL低下が顕著に見られた。
薬関係については、確認ミスなどが多かった。二重チェックの再確認を行い
2024年9月以降は、報告なし。
- 2 ヒヤリハット件数：8件（2024.4.1～2025.2.28）内訳は、転倒8件
ADL低下による転倒。
2024年10月までは、職員が転倒場面確認していないところをヒヤリ報告
10月以降は、転倒は全て事故報告とした。

- (3) 身体拘束件数：3件（2024年度）
コロナ感染をされた利用者で、感染予防で隔離対応が必要。
隔離対応が難しいケースで、身体拘束員会（施設長・看護師・相談員・主任支援員
栄養士）で協議して施設・モニターカメラ設置対応した。
身体拘束・虐待防止研修で、学びを高めて支援に生かしていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- (1) 安否コールの返答率が法人内の他の事業所に比べまだ低い。改善の余地があるため
返答率の向上をめざしたい。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- (1) 利用者の居室の個室化（当面2部屋）については、牧之原市が2026年度着工予定
（補助金使用）新型コロナウイルス感染症対策として市に要望。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

どんな面を維持したいか、改善したいか、何に焦点を向けるかなど。

- (1) 自主ショートステイはこれまで通り、要望があれば検討の上、積極的に受け入れる。
(2) 行政からの依頼によるショートステイも積極的に受け入れる。
基本は依頼があった場合は、相寿園での生活が可能かどうか協議・決定していく。
(3) 水道光熱費の増加が今後の大きな不安要因になっているが、これまで通り、利用者
の増減が収支に大きく関係してくる現状がある。昨今は困難なケースを職員が
チームとして最大限の努力で切り抜けてきている。その実績が関係機関の信頼を
得て、いずれは利用者の増加につながると思う。何よりも職員の日々の地道な
努力が不可欠である。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連

現時点では特に変化なし。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生なし。
インターシップなどを積極的に受け入れていく
2 2024年度、無償ボランティア（レクレーション）月1回受け入れ。
利用者の喜び・活力に繋がるボランティア居たら依頼していく。

N その他

2024年度は、県の指導監査実施。指摘事項が多く、改善に努めていく。

利用者全体が、ADL低下が見られている。介護申請を進めて、外部サービス
を利用するように協議・調整していく。

利用者の他界・施設移動が重なり、在籍人数が減少。ショート利用者が、入所に
繋がるようなケースがあったら積極的に受け入れていく。

また、関係市町にも投げかけていく。

2025（令和 7）年度 事業計画

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標

「利用者、家族、職員が安全に安心して、笑顔で過ごせる施設にします」

2 事業計画

- (1) LIFE を活用し、利用者が可能な限り住み慣れた居宅で、自立した日常生活を送ることができるよう生活機能の維持、向上を目指し支援する。
- (2) 家族とのコミュニケーションを大切にし、身体及び精神的負担の軽減を図る。
- (3) 業務の見直し、ICT を活用し生産性向上への取り組みを更に推進する。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

職員会議等で法人の理念を学ぶ機会を設け、理念の浸透を図り、利用者一人ひとりの思いに寄り添い、利用者の立場に立った支援ができるよう努める。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 利用者の思いを傾聴し利用者本位の支援と、利用者の「やりたい」を「実現」する。
- (2) 自身の課題克服と自ら学ぶ機会を作る。職員同士が助け合い、感謝を伝えられるような職場環境にする。
- (3) 災害対応 BCP の見直し。訓練をとおして出てきた課題を解決しながら PDCA サイクルをまわしていく。防災拠点や地域との協力体制を整える。
- (4) 生活困窮者への食糧支援、地域サロンの送迎、利用者の活動をとおして地域社会参加の活動を増やす。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
35	71	7,900	8,355	308	26.8	77.5%

区分による利用者予想

事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
2	7	8	25	5	13	9	2

2 職員配置予定

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	2	11	3	1	4	22
常勤換算	1.0	1.2	7.1	1.7	0.5	1.3	12.8

3 残業と、有給休暇取得に関する計画

- (1) 業務の見直しと導入した ICT を活用し、記録時間の削減に努める。
- (2) リフレッシュのための有給休暇を計画的に取得する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
月 1 回	職員会議	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討等

月1回	業務改善委員会	生産性向上の取組、業務見直し、5S活動、ICT活用等
月1回	くもん会議	くもん学習療法の月次検討会義
年2回	法) 防災委員会	法人全体の防災に関する連携等
年2回	法) 苦情解決委員会	各施設の苦情報告、事例検討等
年2回	法) 事故防止委員会	各施設の事故・ヒヤリ報告、再発防止策の検討等
年2回	法) 虐待防止委員会	各施設の取組事例報告、虐待防止対策検討等
第2木	DS 合同会議	DSの防災・リスク・感染症予防についての検討等
2ヶ月毎	ケース検討委員会	個別支援計画進捗状況・ケース検討
2ヶ月毎	安全対策委員会	事故・ヒヤリ・身体拘束・虐待防止の検討等
年2回	感染症対策委員会	感染症対策・防止対策検討等
年数回	事業所連絡会	牧之原市介護サービス事業所間の連携

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 手作り昼食やおやつ作りを毎月計画する。利用者の活躍の場を増やして感謝を伝え、喜びと自信が得られるようにする。
- 2 日課の体操や歩行運動を継続し、下肢筋力の維持向上を図る。季節の行事や利用者の「やりたい」を「実現」する取り組みをとおして地域社会への活動に繋げていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全員	記念誌や聖書のメッセージ等の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 朝礼・終礼・時差出勤の職員へ情報共有の時間を設ける。職員同士の何気ない声掛けを増やし、コミュニケーションが円滑になるように心がける。職員会議で職員同士の意見交換がしやすくなるよう工夫する。
- (2) 朝礼・終礼・職員会議等で感謝や良いケアを伝える時間を設ける。ありがとうカードを職員全体で活用していく。

- 3 研修計画

種別	内容	内容
施設内研修	認知症、コミュニケーション	感染症研修
	虐待防止、身体拘束防止研修	介護技術研修（入浴研修含む）
法人研修	新年度研修、主任等研修	DS 合同研修
施設外研修	認知症基礎研修	静岡県社協各研修等
	リスクマネジメント	安全運転管理者法定講習

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
年1回	生活困窮者のための食糧支援	職員
毎月	サロンの送迎	職員
随時	平井農園手伝い、オリーブ摘み	職員、利用者

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
2月	介護者の集い	職員、利用者家族
3月	満足度調査の実施	利用者、家族、ケアマネ

G 苦情について対策

前年度苦情件数 2件（カットバンの貼り替えについて、鍵のかけ忘れ）

- 1 カットバンの貼り替えについては、連絡帳の確認や記載ミスが重なっていたり、鍵のかけ

忘れについても手順書を作成していたにもかかわらず確認しなかったことが要因。確認作業を疎かにしないこと。

- 2 些細なことも速やかに報告し、苦情を受けた際は、内容を傾聴し、真摯に受け止め、迅速に対応する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故：44件(前年度)
車両関係7件と転倒事故6件。職員の確認不足や見守り不足が要因。検証と対策の徹底、情報共有を速やかに確実にを行う。行政報告：4件(2件は体調救急車要請、2件は受診) 労災報告：1件(犬に噛まれた)
- 2 ヒヤリハット：58件(前年度)
職員の確認不足や注意不足、見守り不足等の要因が多いため、業務の見直しと、一人ひとりが責任をもって確認を確実にを行う。
- 3 虐待：0件
- 4 身体拘束：0件
虐待、身体拘束の防止対策については、年2回(8月・2月)に虐待防止委員会を開催し、セルフチェックと話し合いの場を設け、虐待防止に努める。他通所事業所と連携し意見交換や研修を行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 防災マニュアルやBCPの見直し、机上訓練の実施。
- 2 防災備蓄品の整理整頓と使用方法の確認。
- 3 近隣施設と連携し、防災訓練を行う。地域の防災訓練に参加する。

J 環境整備に関する計画 (100万円以上の修繕や改装など)

- 1 消防設備の点検、調整池整備、浄化槽定期点検。
- 2 中庭の畑の整備と活用。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画(前年度の収支状況との関連)
利用者の確保と加算の取得。空席情報等を毎月の真菜通信でケアマネージャーにお知らせするとともに、ショートステイ等での空席を月末に情報提供する。
- 2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2022/4/1		20年	法人本部	30,000,000	4,000,000	18,000,000

L 主務官庁との関連

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

状況に応じてボランティアの受け入れをする。実習生は積極的に受け入れていく。

N その他

- 1 牧之原市介護者のつどいの委託を受け、年2回開催する。
- 2 旧年式の車両(2台)の買い替えを検討する。
- 3 安全運転管理者選任事業所のため、送迎車乗車時アルコール検知器を用いてアルコールチェックを実施し記録する。

2025（令和7）年度 事業計画

認知症対応型通所介護
デイサービスセンターすずらん

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「認知症を正しく理解し、利用者本位ケアを実践する」
- 2 事業計画
 - (1) 認知症の理解を深め、在宅生活の継続を支援する（資格の取得・研修への参加）。
 - (2) 職員が心身共に健康で働くことができる環境を整える(5S活動)。
 - (3) コミュニケーションを図るため、あいさつを徹底する。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - 法人の理念や「共に生きる」についての学びの機会をつくる。
 - 利用者・家族との円滑なコミュニケーションにつなげ、信頼される施設を目指す。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) ご利用者の思いに共感するための学びの場をつくる。
 - (2) 個人目標の設定をし、定期的に自己評価を行う。
 - (3) 送迎時の災害における体制づくりを行う。(防災マップの作成・BCPの見直し)
 - (4) 地域行事やサロンに参加し、地域とのつながりを深める。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者

定員	昨年の 登録者数	昨年の 利用者数	目標とする 利用者数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
12	17	2700	2500	300	8.5	70%

区分による利用者予想

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	0	11	3	2	1	0

- 2 職員配置予定

	施設長	認知デイ管理者	相談員	介護員	看護師	事務員	運転手	合計
実人数	1	(1)	1	6	1	1	0	11
常勤換算	0.1	—	1.0	5.32	0.025	0.2	0.0	6.645

- 3 残業と、有休休暇取得に関する計画
 - (1) タブレットの利用で、入力時間の短縮。水曜日をノー残業 day とする。
 - (2) 誕生月休暇、その人が休みたい月日を事前に聞き取り、有休休暇取得を進める。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内 容
月1回	すずらんミーティング	行事計画、ヒヤリ事故報告・ケース検討 等
月1回	恵の丘職員会議	各事業所・部門の報告、業務改善提案、研修等
年2回	法)防災委員会	事業所BCPの検討、法人本部BCPの理解と連携等
年2回	法)苦情解決委員会	各施設苦情報告、苦情解決体制・課題の検討
年2回	法)事故防止委員会	事故・ヒヤリ報告、再発防止策の検討
年2回	法)虐待防止委員会	取組事例報告、良い点、修正点等GW
年3回	DS 合同(真菜) 感染対策委員会	通所介護事業所の感染対策の情報共有・検討

年3回	DS 合同(真菜) 防災委員会	通所介護事業所の災害時対策の情報共有・検討
年3回	DS 合同(真菜)身体拘束虐待防止委員会	不適切ケア・身体拘束・虐待防止の取組みの検討
年3回	DS 合同(真菜) 安全対策委員会	事故・ヒヤリ報告の確認と対策の評価
年1回以上	グレイス感染対策委員会	感染・褥瘡予防、吸引等の情報共有、対応確認
年1回以上	グレイス安全対策委員会 (リスク・虐待・身体拘束)	事故・ヒヤリ報告の確認と対策の評価 不適切ケア・身体拘束・虐待防止の取組みの検討
年6回以上	グレイス防災メンテ会議	施設設備メンテナンス・防災訓練の計画・実施
年4回以上	食事レク委員会	給食の意見交換、レクの報告・検討
年2回	運営推進会議	施設の運営について報告、委員からの意見提案
月1回	経営運営会議	恵の丘の施設全体の運営について検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 食事作りや作品作りで脳の活性化を図り認知症の症状の進行を緩和する。
- 2 体操やレクリエーションにて下肢筋力の維持を図る。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	理念の継承	全員	サービス提供指針、記念誌、機関紙等を読み合わせる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 職員同士のコミュニケーションが円滑に行えるように、親睦を深めることができる時間を定期的にする。
- (2) 挨拶の徹底を図り、思いやりのある職場に育てる。

- 3 研修計画

種別	内容	内容
恵の丘内研修	恵の丘職員研修	
すずらん内研修	認知症、虐待、身体拘束、介護技術	安全対策、感染症予防等
法人研修	新年度研修・全体研修・主任等研修	真菜との合同研修
施設外研修	静岡県社会福協議会各研修等	
	認知症実践者リーダー研修	人員配置基準要件

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
年2回	坂部ふれあいサロン遊ビリテーション	職員1名
年1回	生活困窮者食糧支援	全員
年2回	運営推進会議	職員1名、地域代表、家族代表（書面会議の場合は全家族へ資料配布）

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
月1回	すずらん便りの発行	利用者・家族、各ケアマネへ
年1回	家族会	全利用者対象、主任、相談員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数：0件

- 1 ご利用者やご家族、居宅介護支援事業所とのコミュニケーションを密にとるようにし安心して利用できる体制をつくる。

- 2 苦情を受けた際は、内容を傾聴し、速やかに発生の要因を分析・対策を検討し、全体の認識を共有する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（件数は前年度）

- 1 事故：7件（転倒、着替え忘れ、蜂刺され等）
職員の確認不足と職員同士の連携不足、報連相を徹底していく。
- 2 ヒヤリ：15件
事故同様、確認不足が要因となっている。慣れによるものが多いため事故及びヒヤリハットの分析をしマニュアルの見直しをしていく。
- 3 虐待：0件
- 4 身体拘束：0件
虐待・身体拘束チェックリストを定期的に行う。委員会の設置をし、年2回の実施及び研修を開催する。他通所事業所と連携し意見交換等を行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 防災設備の購入（ポータブル電源の購入）
送迎車に防災リュックの設置
- 2 BCPに沿った防災訓練の実施

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

特になし

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
昨年度の退所者が13名と例年よりも増えていた。空席情報をケアマネージャーにお知らせしたり、利用のない居宅介護支援事業所にも情報提供していく
- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 小中学生・高校生・大学・専門学校生の実習受け入れ
- 2 感染状況を見ながら地域の小学校・中学校生徒との交流
- 3 外出支援・余暇活動におけるボランティアの受け入れ

N その他

- 1 地域に向かう活動を増やし、地域とのつながりを密にしていく。

2025（令和7）年度事業計画

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさふらん

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をたて事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標 「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」
目標達成のために“伝えあう事・繋がる事”を大切にしていきたい。
- 2 事業計画
 - (1) 地域で暮らせるための支援 ➡ 一人ひとりの身体状況や住環境、生活についての要望などをしっかりと把握し支援する。
 - (2) 職員の育成 ➡ 研修会や日々の実践教育をとおり職員の専門性が高められ、利用者一人ひとりに適切な支援ができるよう努める。
 - (3) 選ばれる施設づくり ➡ 地域の方々から選ばれる施設となるよう魅力ある施設づくりをしていく。そのことにより、稼働率の向上や就職希望者の増加などに繋がりを安定した経営を目指す。
 - (4) 職員がいきいきと働ける事業所づくり ➡ 風通しの良い事業所となるよう、スタッフ間の連携と明るく楽しい職場づくりを行う。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。
 - (2) 一人ひとりがかげがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 自分の成長を実感でき、働きやすく楽しい秩序ある職場をつくる ➡ 研修プログラムに沿った研修を実施することと、OJTでの教育をとおり職員の育成に努め、利用者一人ひとりに適切な支援ができるようにする。
 - (2) 有事に機能する防災体制を築く ➡ BCPに沿った対応が出来るよう周知するとともに、より実践的なものとなるよう訓練を行う。
 - (3) 地域のニーズを把握し、取り組むべきことに着手する ➡ 利用者やケアマネからサービスのニーズを聞く機会を持つ。また、地域の方々との交流からニーズの拾い出しを行う。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 80名
区分によるサービス提供見込み

介 護			総合事業	
身 体	身体生活	生 活	訪問型	緩 和
4,200件	900件	200件	1,300件	250件

- 2 職員配置予定

	施設長	訪問介護員			事務員	合計
		正職	パート	登録ヘルパー		
実人数	1	2	2	6	1	12
常勤換算	0.25	2	1.6	1.77	0.275	5.895

- 3 残業と、有給休暇取得に関する計画
 - (1) 業務改善を進めることにより残業時間の削減に努める。
 - (2) 有給休暇は計画的に消化できるように努め、取得しやすい職場となるよう啓発と管理をする。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種 類	内 容
毎 月	経営会議	運営全般、職員育成、課題解決、事故等検討 等
毎 月	職員ミーティング	情報共有（苦情、事故・ヒヤリの検討含む）、ケース検討、研修 等
年 2 回	虐待防止等対応委員会	虐待防止に関する事
年 2 回	事故防止検討委員会	事故・ヒヤリの防止に向けた検討
年 2 回	感染等対策委員会	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

サービス提供中も利用者とのコミュニケーションを大切にし、悩み事、困っている事などに耳を傾ける。利用者の気持ちへの共感を忘れない。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針、記念誌、機関紙等を読み合わせる
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
毎 月	目標管理シート	全 員	事業所目標、個人目標の達成度を毎月振り返り次に繋げる

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

会議などでは、意見交換できる時間を設け相互に理解しあえるチームづくりをしケアの向上につなげる。

3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	感染症対策	非常災害時の対応
	認知症	事故防止
	緊急時対応	プライバシー保護
	法令順守	ハラスメントの禁止
	身体拘束廃止	虐待防止
	その他、オンライン研修を受講予定	
法人研修	新人オリエンテーション	新年度研修
施設外研修	認知症	身体介護
	排泄ケア	コンプライアンス
	薬の知識	サービス管理責任者研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
年数回	介護勉強会	

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
年 4 回	さふらんだよりの発行	
年 1 回	ご家族アンケートの実施	
常時	連絡ノートを作成し、情報交換する	

G 苦情について対策

苦情件数 1 件 (2025 年 2 月末実績)

苦情や要望については真摯に受け止め、迅速に対応していく。また、日ごろから相談しやすい関係づくりに努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故：28 件 (2025 年 2 月末実績)

事故防止のための対策を話し合い、定期的な検証を行う

(2) ヒヤリハット：0 件 (2025 年 2 月末実績)

大きな事故につながらないために、小さな気付きを大切にする。

(3) 虐待：0 件 (2025 年 2 月末実績)

虐待防止と発見時の対応など研修等で確認していくとともに、職員のメンタルケアを行っていく。

(4) 身体拘束：0 件 (2025 年 2 月末実績)

身体拘束がもたらす心身への影響など職員教育をしていくとともに、ご家族に対する啓発も行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

災害マニュアルやBCPを周知し、有事の際には適切な対応ができるよう訓練を行う。また、聖ルカホームの防災訓練に参加する。

J 環境整備に関する計画 (施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など)

現時点では特になし

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画 (前年度の収支状況との関連)

介護保険事業の件数が減少し総合事業の件数が増加しているため収入減となっている。ご依頼いただいたサービスには真摯に対応していくが収支バランスも考慮が必要。また、職員を確保し提供できる件数を増加させる。

2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2024/9/25	0.85182	10 年	静岡銀行	5,000,000	1,635,900	3,364,100
2014/10/7	1.1	30 年	島田掛川信用金庫	22,500,000	6,865,068	15,634,932

L 主務官庁との関連 (実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など)

現時点では特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

現時点では特になし

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

訪問車両の入れ替えを検討

2025（令和7）年度事業計画

居宅介護支援
シャローム

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標

個人の尊厳の保持を旨とし、利用者の基本的人権を擁護し、これまでの人生や価値観を大切に、望む暮らしが営めるよう利用者本位の立場から支援する。
- 2 事業計画
 - (1) 利用者の意思決定に基づいた支援の提供のため、より丁寧にアセスメントを実施し、利用者の価値観や人生観を大切にする。
 - (2) 地域共生を意識し、インフォーマルな支援を組み入れたケアプラン作成、生活困窮者食糧支援事業、地域サロン、民生委員との交流等で地域との繋がりを深める。
 - (3) より質の高いマネジメントが提供できるよう、研修等で専門知識・相談援助技術の向上を図る。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。
 - (2) 利用者に対して理念に基づくケアマネジメントの提供ができるよう努める。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 利用者の思いに寄り添い、「やりがい・役割」を意識し、望む暮らしが実現できるよう支援する。
 - (2) 事業所内で相談し認め合える環境を整え、ケースによっては協働し課題解決を図るよう努める。
 - (3) 日頃から地域で繋がる共生社会を意識し、有事には「知らなかった」という取り残しが残らないよう要配慮者避難確保事業にも協力してあたる。
 - (4) 利用者の望む暮らしが営めるよう支援にあたり、地域課題を把握しながら問題解決に向けた取り組みを講じるよう努める。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者数

昨年 受入 上限	本年 受入 上限	目標 受入 件数	昨年の 利用者 延数	目標とする 利用者延数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
67	75.5	60	686	720	240		80%

区分による利用者予想

総合事業	支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	5	27	14	9	4	2

2 職員配置予定

	施設長兼管理者 主任介護支援専門員	介護支援専門員	事務員	合計
実人数	1	1	1	3
常勤換算	1.0（施設長 0.1）	1.0	0.05	2.05

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

毎週月曜日をノー残業デーとし、有休取得でプライベートな時間も大事にする。生産性の向上のため作業効率が上がるよう取り組み、残業を減らすよう努める。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内 容
月 1 回	居宅会議	ケース報告・検討、感染症・虐待委員会の結果周知 他
月 1 回	主任ケアマネ会議	ケアマネ育成、資質向上の研修・講師・ファシリ
月 1 回	経営運営会議	恵の丘の3施設全体の運営について検討
年 6 回	ケアマネ連絡会	吉田牧之原ケアマネジャー連絡会運営・研修企画等
年 2 回	法)事故防止委員会	集計報告、事故の原因究明と再発防止対策、評価
年 2 回	法)苦情解決委員会	各施設の事例報告、対応の修正点等GW、
年 2 回	法)虐待防止委員会	事例報告・対策・虐待の芽を摘むためにGW
月 1 回	恵の丘職員会議	各事業所・部門の報告、業務改善提案、研修等
年 2 回	感染症対策委員会	感染症の予防・まん延防止のための対策を検討
年 2 回	虐待防止委員会	組織、指針の整備、研修、体制整備、防止策等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

個々のケースに合わせてサービス利用をマネジメントするだけでなく、ご本人ご家族の真の願いが達成できるように、声掛け・提案・紹介をしていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
月 1 回	理念の継承	全員	法人の理念について示唆してくれる書物の読み合わせを行う

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 常に情報共有し、気軽に相談し合える環境を維持し、一人で抱え込まない。
- (2) 年 2 回茶話会を開き、肩の力を抜いて業務上の悩みや日頃の楽しみ等の話をする。

3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内研修	恵の丘全体職員研修	身体拘束・虐待・感染症対策 事故防止・法令遵守・非常災害対応・ハラスメントの禁止 等
法人研修	新年度研修、全体研修	
施設外研修	ケアマネ連絡会・県ケアマネ協会他	ケアマネジメントの質の向上
	介護支援専門員法定研修（専門Ⅱ）	関係機関との連携・研修・勉強会

受講必須研修

- ・感染症の予防及びまん延防止のための研修・訓練 年 1 回
- ・高齢者虐待防止に係る研修 年 1 回
- ・感染症・非常災害時の業務継続に向けた研修・訓練 年 1 回

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
年 2 回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション	職員 2 名
年 1 回	生活困窮者への食糧支援	全職員
年 2 回	榛原地区・相良地区での民生委員との交流会	職員 2 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
毎月	利用者宅訪問（モニタリング）	職員 2 名

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数 0 件 苦情申し出があった際は速やかに状況把握し、丁寧に対応する。
常日頃より、報告・連絡・相談をし、個人情報等の適切な情報管理に努め、定期的な委員会
会で得た情報を事業所内で共有し、サービスの質や信頼性の向上を図る。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（件数は前年度）

- 1 事故：0 件
5分前行動を習慣づけ、事故を防止する。
- 2 ヒヤリハット：0 件
- 3 虐待：0 件
介護者への傾聴やねぎらいの対応で、虐待・身体拘束を見逃さないよう支援する。
- 4 身体拘束：0 件
心配事は事業所内で速やかに話し合い、サービスの見直しや包括への相談等含め、適切
に処理する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 恵の丘の事業所としてグレイスの防災訓練に参加。
- 2 法人防災訓練では、居宅としての災害発生を想定した机上訓練を行い、安否確認一覧
表を見直す。BCPの訓練として実動訓練も視野に検討していく。
- 3 利用者の災害用情報シートの更新と新規分を随時作成するよう努める。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
新規受け入れはケアマネ毎月 2 件を目指し、稼働率 80%を目標とする。
将来的に特定事業所加算を取得できる事業所となるように、人材の育成を丁寧に行う。
- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

介護支援専門員実務研修生の受入れ

N その他

2025（令和7）年度 事業計画

牧之原市地域包括支援センター
オリーブ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標
様々な研修や職員同士の切磋琢磨を通して、職員の人間性を養うと同時に専門性を深め、質の高い支援ができる事業所を目指す。
- 2 事業計画
チームワークを育み、働きやすい職場を目指す。そのためには休暇取得がしやすい職場、残業時間の少ない職場にする必要がある。職員の知恵と工夫で業務改善をはじめ、様々な取り組みに挑戦する。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 利用者や家族の声に耳を傾け、浮かび上がる地域ニーズを把握し、課題解決に向けた取り組みを行う。
 - (2) 現在のBCPを職員間で周知し、より実践的な計画となるよう更新していく。

B 利用者と職員の状況(見込み)

- 1 目標とするプラン件数

プラン件数（月）	実態把握訪問（年）	介護予防啓発（年）	地域介護予防活動支援（年）
170件	200件	15件	15件

- 2 職員配置予定

	施設長	社会福祉士	保健師	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数	1	2	1	0	2	3	1	10
常勤換算	1	2	1	0	0.92	2.5	0.37	7.79

※市から求められている配置数 3職種：3.7人工とプランナー：3.5人工 合計7.2人工

- 3 残業と、有休休暇取得に関する計画
 - (1) 業務改善等により残業時間を前年度より減らす。
 - (2) 有給休暇を取得しやすい職場となるよう啓発と管理をする。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	内容
毎月第3火	職員会議	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 出張報告・事業進捗・検討事項・研修等
毎月第1火	権利擁護検討会	ケース検討
年6回	高齢者障がい者連絡会	ケース検討
第2水曜日	(法)高齢者部会	高齢者部門管理者で事業報告・課題検討など
第2水曜日 第4水曜日	支援センター連絡会	第2：事務連絡会、 第4：ケース検討会
年2回	(法)事故防止検討委員会	事故防止に向けた検討
年2回	(法)苦情解決委員会	各施設の事例報告、再発防止や対応についての検討
年2回	(法)虐待防止委員会	虐待の根絶を目指し、各事業所の取り組みの現状について情報交流を行う。

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- ・毎月機関紙「ええあんばい」を発行。市内在住の高齢者の投稿作品を掲載する。

- ・利用者の特性を十分に活かしたプランをたてていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として共通目標を認識する。
職員会議で法人の理念、行動指針、私たちの願い等の読み合わせを行う。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
日常業務の中で、職員個々の思いを互いに共有する。
- 3 研修計画

種別	内容	内容	内容
施設内研修	虐待予防	災害・BCP	個人情報の取り扱い
	ハラスメント	感染症	
法人研修	新年度研修	主任等研修	虐待予防研修
施設外研修	県マネジメント講座	二段階方式	成年後見人制度
	課題整理総括表	地域ケア会議	虐待
	包括基礎研修(国)	包括現任者研修	認知症関連研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- ・民生委員との年1回の定期面談は継続する。また、毎月実施されている定例の民生委員協議会では、会議の前にやまばとパンの販売を通して、顔の見える関係作りを続ける。

F 家族との連携、交流、連絡などに関連する計画

- ・プラン作成時、家族の意見を必ず確認し、計画に反映させていく。
- ・複雑化する家族関係を把握し、家族を含めた利用者理解を深める。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考える事）

- 対応手順に沿って、速やかに対応方法や再発予防の検討、市や法人への報告を行う。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故：多角的に分析を行い、再発予防に努める。
- (2) ヒヤリハット：要因分析を継続し、事故防止に努める。
- (3) 虐待防止：包括主催の研修を実施する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 作成されたBCPを習得できるよう事務所内での研修を実施していく。
- 2 市、法人主催の防災訓練に参加する。

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
牧之原市の委託契約に沿った運営を行う。
- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連

日常の具体的業務で連携を図る。

M 実習生やボランティア

実習やボランティアの要請があれば、その都度対応する。

N その他（監事監査指導事項への対応など、特に記すべきことなど）

特になし